

特 集 1

シティライフ学シンポジウム 「MICE都市」の創造に向けて—産官学民による誘致戦略を考える—



…… 要 綱 ……

1. テーマ 「MICE都市」の創造に向けて—産官学民による誘致戦略を考える—
2. 日 時 2024年7月2日(火) 14:00～16:45
3. 会 場 宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス
4. 次 第

(1) 基調講演「MICE誘致のための都市づくり」

横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部長

正木 章子 氏

(2) 事例紹介

①「新潟市におけるMICEの現状について」

公益財団法人新潟観光コンベンション協会副理事長

木村 勇一 氏

②「宇都宮市におけるMICEの実績、誘致等体制、課題」

一般社団法人宇都宮観光コンベンション協会常務理事

鈴木 孝美 氏

③「地方都市のMICE戦略」

株式会社コンベックス代表取締役専務

西川 洋子 氏

(3) パネルディスカッション

「各都市に学ぶMICE誘致戦略」

パネリスト

宇都宮市魅力創造部長	安納 正和 氏
(前 掲)	西川 洋子 氏
(前 掲)	木村 勇一 氏
(前 掲)	鈴木 孝美 氏
(前 掲)	正木 章子 氏

司 会

宇都宮共和大学 学長・宇都宮まちづくり推進機構 理事長 須賀 英之

- 主 催 | 宇都宮共和大学都市経済研究センター
共 催 | 宇都宮まちづくり推進機構・宇都宮市創造都市研究センター
後 援 | 栃木県・宇都宮市・栃木県経済同友会・宇都宮商工会議所・栃木県まちなか元
気会議・大学コンソーシアムとちぎ・宇都宮観光コンベンション協会・栃木県
宅地建物取引業協会・宇都宮市大谷石文化推進協議会・下野新聞社・とちぎテ
レビ・栃木放送・エフエム栃木

■司会

それでは開催に当たり、初めに主催者を代表しまして宇都宮共和大学学長の須賀英之より開会のあいさつを申し上げます。

■須賀

宇都宮共和大学シティライフ学シンポジウムによるこそお越しくございました。今日は「『MICE 都市』の創造に向けて」と題して行います。私は学長の須賀英之と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2022 年の 12 月になりますけれども、JR 宇都宮駅東口にライトキューブ宇都宮が開業しました。今日はパンフレットをお配りしてありますが、会議や展示会等が大変にぎやかに行われているようです。また、一昨年 2023 年の 8 月には東側に LRT が開業しました。それと相まって、新しいまちづくりの旗手として大変話題を呼んでいます。

これが一過性の開業人気とならないように、宇都宮市では MICE 戦略というものを策定し、マーケティングに基づいた、持続的な MICE の誘致を目指しておられます。

本日のシンポジウムは有識者の方々が大勢おみえです。先進地域の取り組みに学び、そしてまた国際会議を含めた MICE 誘致を実現し地域活性化の起爆剤とするために、その戦略を考えていきたいと思っています。



しかしそのためには、広域のアフターコンベンションの魅力創造あるいは誘致や運営のための組織、人材、財源、そして産官学民の連携ネットワークなどが必要になってきます。今日はこうした課題解決のために、ぜひお集まりの皆さまとご一緒に検討していきたいと思います。

最初に、横浜市の正木さまから基調講演をいただきまして、その後に新潟、宇都宮、そして運営者側の立場ということでコンベックス、以上のお三方からお話を頂きます。その後、宇都宮市魅力創造部長の安納さまにも加わっていただいて、そして正木さまにもコメントを頂き、5時前には終了になります。基調講演の後には一度休憩を取って、そして場面転換をしたいと思っています。

資料2にそれぞれの皆さまのプロフィールを書いてありますので、詳しくはこれをご覧いただきたいと思います。正木さまはもともと横浜市に入庁し、その後、観光コンベンション関係やパシフィコ横浜の運営管理などに当たられている、先進地域の先生でいらっしゃいます。

そして宇都宮市の、魅力創造部というのはあまり聞きなれない言葉かと思いますが、今年の4月に、一体的に文化とスポーツ、また産業のコンベンションなどの振興をするということでつくられた部です。そちらの部の、安納部長です。

西川専務さまはコンベックスの専務ということで、運営の立場で国際会議の運営などをされています。利用者側から見た望ましいコンベンションの運営の在り方ということで、今日お話をいただけるのではないかと思います。

木村副理事長は新潟の観光コンベンション協会の副理事長さまです。もともと新潟市の方でして、新潟市の副市長なども務め、幅広いご見識をお持ちです。

そして、宇都宮観光コンベンション協会の鈴木常務です。鈴木常務も宇都宮市で総合政策部の部長などを務められ、市政全般に貢献していらっしゃいましたが、一昨年より、まさに宇都宮市の非常に重要な政策である観光コンベンションのお仕事をしていらっしゃいます。そういった皆さまです、どうぞご期待いただきたいと思います。

最後になりましたけれども、本日の開催に当たりましては、宇都宮市まちづくり推進機構や創造都市研究センター、また栃木県宇都宮市、そして今日会長もおみえですが、宇都宮市の商工会議所をはじめとする関係団体の皆さまに大変お世話になりまして、あらためて感謝を申し上げます。

それでは、皆さまにとって有意義な時間となることを期待しています。本日は誠にありがとうございます。

■司会

ありがとうございました。それでは、基調講演をお願いします。ご講演は、横浜市にぎわいスポーツ文化局観光 MICE 振興部長の正木章子さまです。それでは正木さまから、「MICE 誘致のための都市づくり」と題しまして、お話をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

基調講演

「MICE 誘致のための都市づくり」



横浜市 にぎわいスポーツ文化局 観光MICE振興部長

正木 章子 氏

「MICE 誘致のための都市づくり」ということで今回テーマを頂きましたので登壇させていただきます、横浜市にぎわいスポーツ文化局観光 MICE 振興部長の正木と申します。どうぞよろしくお願いします。

■グローバルMICE都市 横浜

横浜の上位計画の位置付けをまず共有したいと思います。「グローバル MICE 都市横浜」として、平成 25 年の 6 月にグローバル MICE 戦略・強化都市に、東京都、横浜市、京都市、神戸市、福岡市、大阪府・大阪市、名古屋市・愛知県が選定されています。平成 27 年の 6 月にグローバル強化都市として、札幌市、仙台市、千葉県・千葉市、広島市、北九州市の 5 都市が選定されています。

日本国内を見てみますと、いろいろな都市でグローバル MICE 都市として切磋琢磨^{せつさたくま}しながら頑張っていこうということで、横浜も選定いただいています。[スライド 1.3]

また、「グローバル MICE 都市横浜」として、横浜市の中期計画、上位計画の政策の一つとして観光 MICE 振興を位置付けています。こちらに観光入り込み客数などのグラフが書かれています。コロナの時に減ってしまったのですが、入り込み客数は昨年²⁰²²年の調査、2023 年ベースですと 3,600 万人です。消費額は 3,667 億円ということで、コロナ以降、2019 年のベースに戻ってきています。また、その下になりますが、パシフィコ横浜の国際会議の開催件数についても目標値を設定しています。こちらにつきましてもコロナ禍ではかなり苦戦しましたが、徐々に回復の兆しがあります。[スライド 1.4]

横浜の強みの一つとしてアクセスのよさがあります。宇都宮市さんの施設を午前中に見せていただきました。駅直結で LRT もあり、また東京駅から新幹線で 50 分と、非常にアクセスがよいと感じました。

横浜は東京駅から 25 分、最寄り駅の横浜駅から 1 駅乗るか、歩いて 10 分ちょっとで、アクセスの良さはメリットです。羽田空港からも 25 分弱ですし、渋谷駅からもその程度です。新横浜駅も新幹線が止まり、そちらから 8 分と、非常にアクセスがよいです。[スライド 1.5]

皆さんに横浜をイメージしていただいた時に、みなとみらいやウオーターフロントの美しい景色を思い出していただけるかと思いますが、開放的なウオーターフロントで、5 キロぐらいで歩

いて回ることができます。

また、ホテルや商業施設、観光施設、そして企業・研究機能が集積しています。ホテルは集積が進んでいまして、横浜市内ですと直近の数字で 145 軒、2 万 3,250 室数あり、みなとみらい地区にもかなりの数のホテルが集積しています。

大規模イベントによるにぎわいとして、Kアリーナという 2 万人収容規模のアリーナ施設がオープンしました。また、ぴあアリーナなどの音楽系の施設も集積が進んでいます。

そして、豊富な MICE 開催実績ということで、横浜市が取り組んできた実績があります。そこに強みがあります。

こちらはデータです。横浜市の国際会議の開催状況について、2022 年はコロナの影響があるので 2019 年を見ていただきますと、開催件数は 277 件です。東京が 561 件、京都が 383 件、福岡が 313 件、神戸市が 438 件など、件数としては他都市が多いという状況です。

一方で、開催状況ということで参加者数を見ていただきますと東京に次ぐ 2 番目ということで、東京都が 30 万 8,000 余、横浜市は 30 万 3,700 位で、開催件数に比して参加者数が多いということになっています。

国際会議の開催実績について、直近のもので見ていきたいと思います。アフリカ開発会議については第 5 回の後に第 7 回が開催され、次も予定されています。参加者規模が多いもののがかなり開催されています。JCI の世界会議横浜大会ですと 1 万 7,306 人で、こちらは国際青年会議所の世界会議ですが、大規模なものも開催いただいています。[スライド 1.6]

「横浜 MICE に欠かせぬ存在、パシフィコ横浜」と書いています。パシフィコ横浜の開催件数は 30 件で参加者数は 5 万 700 件、外国人がその 3.3% ぐらいということで、国内の MICE 施設での開催件数としては 20 年連続で 1 位となっています。

パシフィコ横浜は民設民営の施設です。当初は横浜市や県や経済界の方々が出資をした、第 3 セクターということで株式会社横浜国際平和会議場という形になっているのですが、横浜市の公共的な施設として位置付け、しっかりとまちと一緒に連携してやっていかなければいけないという根拠にもなっていると思います。

ちなみに 2023 年度ですと、パシフィコ横浜の利用件数が 930 件で、来場者数が 363 万人です。仮に、人口規模と比べると、横浜市の人口は大体 380 万を切るぐらいなので、来場者数 363 万人は同じぐらいです。屋外には臨港パークという、ウオーターフロント側に港湾局が持っている公園のような緑地があり、そこでの利用も含めると 464 万人の方が来てくださっているということで、かなり多くの方に来ていただいています。

■パシフィコ横浜とともに歩んだ横浜 MICE

「パシフィコ横浜とともに歩んだ横浜 MICE」ということで、6 大事業の一つである都心部強化事業を受けてスタートした、みなとみらい 21 事業の中の一つなのですが、横浜も順風満帆ではなかったということで、横浜の歴史に触れたいと思います。

横浜が開港したのが 1859 年で、その 3 年後に生麦事件が起きました。島津久光のご一行が生

麦で行列している時に行列を遮ったイギリス人を、薩摩藩士が切りつけた事件ですけれども、その後廃藩置県が起これ、その後 1889 年、開港から 30 年後に市制が敷かれています。

その後、日清戦争や日露戦争、第一次世界大戦が起きました。そして関東大震災が 1923 年にありまして、横浜は多大な被害を受けました。その時の瓦礫で山下公園を埋め立てたという歴史もあります。

その後ですけれども、第二次世界大戦の後、横浜は日本最大の港湾都市だったということもあり、工業地帯の横浜も、度重なる空襲を受けまして、焦土と化したということです。

その後、ポツダム宣言を受託した後に進駐軍の接收が行われました。山下公園や競馬場など、中心部がほとんど接收され、全国の土地接收面積の 62% を横浜が占めたということで、横浜はかなり接收されたようです。

その後、高度成長期などを受け人口が急増したということもあり、東京のベッドタウン化をしていきました。人口急増により課題が出てきました。

人口の話をしてみますと、最初、横浜市政が敷かれた時が 12 万人だったのですが、約 20 年後には 30 万人増えて 42 万人になりました。さらに 30 年後には 100 万人になり、さらに 27 年後には 200 万人になり、18 年後には 300 万人になりということで、100 万人オーダーでどんどん人口が増えました。

また、横浜市の市域面積もどんどん拡張し、市制が施行された時は 5.4 平方キロメートルだったのですが、今は 439 平方キロメートルと 70 倍以上の地域面積になっています。

こういった歴史や人口増加、地域の拡大などもありまして、横浜市では五重苦と言っているのですが、震災、経済恐慌、戦災、接收、人口急増に悩み苦難を乗り越えてきたということです。

この五重苦で、接收によって都市機能の整備が遅れたということがあります。また、人口急増によって東京のベッドタウン化し、人口急増により、学校の不足や計画的でない開発など、いろいろな課題が起こってきました。

このような中で、6 大事業を 1965 年に発表しました。このうちの一つがみなとみらいの 21 事業につながる都心部強化事業です。ちなみに 6 大事業には、ベイブリッジの建設や高速道路網の建設や地下鉄、あと金沢地先といいまして、工場団地などが集積しているエリアの埋め立て、あとは港北ニュータウンとあって、住宅地を計画的につくっていく建設事業などがあります。

こちらのポンチ絵は、都心部強化事業として、横浜駅の周辺地区と関内・伊勢佐木町地区の間をしっかりとつないで、中心地区をつくってこうと計画されました。この事業によって埋め立てなどが進んでくるのです。[スライド 1.7]

今の全体像としては JR がありまして、みなとみらい線という新交通が走っています。ここにみなとみらい 21 地区という、都心部強化事業で埋め立てた地区があるのですけれども……。横浜駅がこちらにあって、中心市街地、こちらに関内地区というところがあります。この旧市街地を一体化していくという事業です。

年表でお伝えしたいと思うのですが、1965 年に、横浜市が 6 大事業の一つとして都心部強化事業を発表しました。それを実現化するために委員会を立ち上げ、基本構想を報告いただき、基

本構想を主として決定し、地区組織をつくり、名称を作り、というような流れで、埋め立てをして区画整理をしていくということで、昭和 58 年に事業着工をしました。

徐々に取り組んでいきますが、埋め立て中央地区という第 1 工区が完了して、それとほぼ同時期に株式会社横浜国際平和会議場が設立されました。同じ年に、みなとみらい 21 地区に国立横浜国際会議場を建設ということで、西の京都と東の横浜の国立ということで、閣議で国立大ホール建設の了承を頂きました。

あとは、この横浜国際平和会議場に対して、国が民活法適用対象施設として会議施設を認定しました。民活法は、今は廃止されているのですが、こちらの対象施設には支援が設けられていました。

その後に、YES'89 という横浜博覧会が 1989 年に行われるのですが、この同時期に地域冷暖房、DHC と言っているものが竣工しました。あとは公園系ができていきました。またこの時点で、施設では横浜美術館がオープンしました。

その後 1991 年に、ホテルオープン、展示ホール竣工ということで、パシフィコ横浜の 1 期が竣工しました。その時の写真を見ていただきますと、着工前にはこのような形だったのが、徐々に土地もできていって、埋め立てと区画整理が進んでいます。

この後 1993 年に、横浜市は国から業務核都市基本構想の承認を受けました。各都市で首都機能を担っていくことと、セットで行政機関等を自治体などに移転するというものでした。この中にもパシフィコ横浜の整備を位置付けています。これに位置付けることで税制優遇も受けるなど制度も活用しています。

当初は横浜美術館と、パシフィコ横浜の 1 期部分だけがありました。パシフィコ横浜は駅から離れたところにあります。こちらが横浜駅で、こちらが桜木町駅で、パシフィコ横浜がここに、国際会議場、国立大ホール、展示ホールがあります。こちらに臨港パークという、港湾の緑地があります。

また、横浜美術館の他はほとんどできていなくて、当初はここら辺の建物もない中で、まずコンベンション施設から計画的に取り組んだということです。

1991 年の状況ですが、この半円形のものがインターコンチネンタルホテルで、その横にあるのが展示ホール、その間にあるのが国際会議場と国立大ホールです。周辺にはランドマークタワーがあるのですが、そちらはまだできていない状態の中で、こちらが竣工したということです。まずパシフィコ横浜ができて、周辺にどんどんまちづくりが進んできました。

右に書いてあるのですが、第 10 回国際エイズ会議ということで、数年前から横浜市と横浜コンベンション・ビューロー、当時のビューローと共に誘致活動を行い、アジアでの初開催が実現した会議です。感染者の受け入れや差別撤廃で、開催前から話題となりました。横浜市は受け入れに当たり、周辺の関連団体に向けて研修会を開催し、正しい知識の普及と教育啓発を積極的に行い、アジア、そして日本におけるエイズ教育の布石となった、大変貴重な会議を誘致したということです。

次に左になりますが、2002 年の FIFA ワールドカップのコリア／ジャパンの国際メディアセ

ンターとして使われました。パシフィコ横浜の展示ホールに報道拠点、国際メディアセンターを設置し、また、大会の前年の2001年には展示ホールをそれまでの2倍の2万平方メートルに増床をしています。平たいのが3つ、長方形に見えるのですが、それを倍にして、メディアセンターにする前年度に拡張をしています。

あとは、APECの首脳会議を2010年に開催しています。APECの日本開催は、1995年の大阪以来の2回目ということで、21の国と地域から1万600人の方に来ていただきました。APECの首脳会議の誘致実現については、アフリカ開発会議に続く大型の国際会議の開催となり、横浜の国際コンベンション都市としての地位を一層高めるとともに、横浜が開港150周年後の次の50年に向けて、国際都市として踏み出す重要な一歩となったと考えています。

次です。アフリカ開発会議は、日本政府が主導し、国連開発計画、アフリカ連合委員会、そして世界銀行と共同で開催する、アフリカ開発をテーマとした国際会議です。横浜市は2008年、2013年、2019年の第4回、第5回、第7回の開催地となりました。第7回のアフリカ開発会議では42名の首脳級を含むアフリカの53カ国のほか、国内外から1万人以上に参加いただき、わが国が主催する最大規模の国際会議となりました。次回の第9回は、2025年に横浜で開催予定となっています。

あと、右側ですけれども、ポケモンのワールドチャンピオンシップが開催されました。ポケモンのゲームとカードゲームの世界大会で、カードゲーム部門、ゲーム部門、ポケモンユナイト部門、ポケモンGO部門の4部門で構成されるものです。毎年世界中から各地域の国の激戦を勝ち抜いたプレーヤーの方が参加され、世界チャンピオンを巡って熱いバトルが繰り広げられます。ポケモンワールドチャンピオンシップ2023は、日本で初めて、さらにアジアで初めて開催されたということで、世界中から1,000人を超えるプレーヤーのほか、多くのポケモンファンの皆さまが横浜に集まりました。ポケモンワールドチャンピオンシップの時はまちもポケモン一色になっていました。こちらは、会場の外にもかなり出てきた取り組みです。

次です。パシフィコ横浜の機能強化ですが、パシフィコ設置の経緯も含め、横浜の大事な公共的な施設、MICE施設として整備をしてきました。施設整備の変遷ですが、1991年に会議センターとホテル棟が竣工、展示ホールが1期ということで、2万平米の半分が竣工しました。

その後94年に、国立横浜国際会議場、国立大ホールと言っている、5,000席の大ホールが完成しています。展示ホールの2期が先ほどのFIFAワールドカップのメディアセンターの前の年に竣工したのですけれども、2万平米の半分の左側、そちらが竣工しています。

その後さらに、左側にノースと書いてありますけれども、パシフィコ横浜ノースを開業しました。建物により事業手法も違いまして、その時代、時代で最適な事業手法を採ってきたかと思います。

パシフィコ横浜ノースについてはPFI事業で市の施設として整備しました。PFI法でコンセッション事業者運営に運営権を渡してやっていただくため、指定管理よりも裁量がある運営をしていたと事業スキームを採っています。

パシフィコ横浜は、オールインワン施設と言っているのですけれども、大ホール、展示ホール、

ホテル、そして会議室もあるという複合施設で、大きな展示セットの会場にも選んでいただいた実績もありますが、大きな展示会と会議がセットで開催される主催者の方から「この規模なら横浜ではできません」と毎年言われるという話を、パシフィコ横浜からも聞いていました。

展示ホールを広げないといけないし、1,000 人ぐらいのバンケットができるといい。横浜の大事な MICE 施設としてしっかりと機能強化していかなければいけないということになりました。

敷地の半分はホテルが立地しており、オールインワンというのがやはり強みなのかと感じています。[スライド 1.8]

みなとみらいは、どんどん集積が進んできて、来街者の需要に応じてホテルや商業施設、また観光施設が集積をしてきています。横浜市内ですとホテルが2万室以上あるのですけれども、みなとみらい地区においても6,200 室ぐらいのホテルがあり、ホテルの集積も進んでいます。

ホテルの開業という意味でいいますと、直近ですと2023年に三井ガーデンホテルやヒルトン、2022年にはウェスティン、そして2020年にはカハラやニューオータニイン、そういった形で、2000年以降もホテルが開業しています。

そして商業施設ですと、ランドマークプラザやクイーンズスクエア、ワールドポーターズ、コレットマーレ、マークイズみなとみらいといったような複数の施設があります。観光施設ですと、観覧車があるところにコスモワールドという遊園地があったり、カップヌードルミュージアムという体験型のミュージアムがあったり、アンパンマンこどもミュージアムがあります。[スライド 1.9]

次です。これは見ていただけたらと思います。パシフィコ開業時のみなとみらいを見ていただきますと、パシフィコの会議センターと、半円形のものがインターコンチネンタルホテル、それと左のほうにちょっと入っているのが横浜美術館で、本当にそれだけですが、今ですとかなり集積が進んでいます。

みなとみらい地区の現在ということで、高水準のインフラ整備や景観を生かした街並みの形成、快適なビジネス環境の整備などを進めまして、街区開発の進捗状況^{しんちよく}としては94%が開発済みになっています。暫定利用を入れますと99%で、未利用地が1%という形になっています。

みなとみらいの来街者数もどんどん増えていまして、就業者数も13万4,000人ということです。当初は19万人を目指していたのでまだこれからというところもあるかと思いますが、徐々に伸びてきています。

みなとみらいや、都心部といわれるところ、左右のところについては、交通関係もしっかりやらなければならないということで、スライドがなくて恐縮ですが、分かりますか。ヨコハマ・エア・キャビンという都市の巡回型ロープウエーを設置しています。上空40メートルから見ながら移動できるという、全長600メートルちょっとのロープウエーがあったり、連結バスを走らせて回遊をしていただいたり、そういったこともしています。

今日のテーマが「産学官民による」ということですが、横浜市は、都心部において多彩な交通をしっかりと進めていこうということで、民間事業者の方々に、都心部で交通回遊性を向上させるためにできることを提案いただいて、その提案を実現するための協議により実現しています。

みなとみらい 21 地区の開発や事業活動がもたらす波及効果の推計です。こちらは産業連関表の公表の時期に合わせてやっているものです。波及効果もしっかりと出しながら、市民の方々にも理解をいただくことを目指して進めています。

建設投資による市内の波及効果ということで、累計額が3兆5,000億円程度で、年稼働による市内の経済波及効果は2兆846億円と出しています。[スライド 1.10]

話はちょっとずれてしまいますけれども、今、横浜市観光協会という、観光と MICE をやっているビューローがあるのですけれども。そこも横浜 DMO になりまして、データを活用したマーケットインでの施策をやっていくという取り組みをしています。しっかりとデータを示してきちんと KPI も設定する中で、何を効果的にやっていくかということが大事になっています。こういった経済波及効果などもしっかりやりながら、皆さんの理解を得られるよう取り組んでいます。

■これからの横浜 MICE

みなとみらい地区の開発についてもハード面はほぼ完了してしまっていて、残りは1%です。横浜駅や関内駅の周辺や、みなとみらいの都心部強化事業のもととあったエリアのところで、市街地整備事業なども計画されています。みなとみらいについては、ハード面はほぼ完了なので、地域の経済効果の最大化を目指しています。

市民や企業団体と共にまちが一体となって MICE 来街者をお迎えする環境づくり、ソフト面をやっていくということで、どんどん質を上げていくことと、市内事業者の方々と力を合わせて、市民の方々と力を合わせてやっていくというフェーズに移ってきているかと思っています。[スライド 1.11]

MICE の戦略的誘致の加速というところで、ターゲットとしては経済効果の高い中・大型の国際会議や医学会議やビジネスイベントなどを狙っていくということです。やはり日本最大級のオールインワンの複合 MICE 施設でありますパシフィコ横浜や、開催実績の蓄積、アクセス環境など、まちの特徴を生かしながらやっていこうと思っています。

これは、IEEE というものの、ICRA の会議の写真なのですが、ロボット工学とオートメーションに関する国際会議の時の資料になっています。こちらについては新しいノースの施設も含めて全館を利用いただきました。そこにガンダムの頭があるのですけれども、港湾のほうにガンダムがあったのをこちらに展示したりと、そういうこともしながらやっています。[スライド 1.12]

次です。MICE 参加者の回遊性向上と受け入れ環境整備ということで、アフターコンベンションの充実等によって経済効果を最大化していくということもあります。ユニークベニューと書いてあります。その左の写真は山下公園ですが、Park-PFI という手法を使ってレストランを設置しています。その屋外に足湯があるのですが、そこを使っていただくユニークベニューを開発しています。また、みなとみらいには企業がかなり集積をしまして、立地する際に「企業ミュージアムの設置」「アートの設置」をしています。

そういう拠点の集積を生かしたもののやテクニカルビジットの充実、あとは、アフターコンベンションで、ちょっと歩いたところに行きますと、立ち飲みができるような野毛という面白い地区

もありますので、まちぐるみで MICE 参加者に、回遊いただくような仕組みを構築していきたいと思っています。

ちょっと右のほうにお寺があります。そこで座禅体験をしていただいています。ここはお寺の方が英語も堪能ということで、参加された方にも非常に喜ばれているということもありますので、こういった日本的なものも取り入れながらと思っています。[スライド 1.13]

あとは社会的効果の拡大ということで、ビジネス機会やイノベーションを創出していきたいと思っています。市内の企業や大学、研究機関等との MICE 参加者と出展者とのマッチング、市内事業者の受注機会拡大、MICE 開催を契機としたビジネス機会の創出拡大に、今取り組んでいこうと思います。展示会をする時に横浜市観光協会ブースを一個借りまして、市内事業者の方に出席していただくようなこともやっています。

また、MICE を契機にして、最先端の技術情報や、あと研究者と子ども、若者が触れ合う機会を提供する次世代育成プログラムなどを行っています。6 月 30 日はちょうど AI の関係で次世代育成事業をやらせていただいたのですけれども、本当に最先端の研究をしている先生から子どもたちが直接お話を聞き、それで自分たちで考えるという事業を実施しました。引き続きやっていきたいと思っています。[スライド 1.14]

次世代育成事業は MICE に取り組み続けるからこそできることで、iPS 細胞の山中伸弥先生が参加される学会が 10 年以上前にあったのですが、その時にも先生に授業をしていただきました。お子さんたちが今どこで、その影響を受けてどうしているのだろうということをととても楽しみにすることで、そういう取り組みを積み重ねていきたいと思っています。

また、国際会議の参加者の方々に本当に短時間で、40 分しゃべって 10 分ディスカッション、40 分で 10 分ディスカッションというような市民公開講座もやっていただきました。本当に、興味関心の高い方々が参加しており、英語で直接やりとりするところも見て「MICE 開催の可能性は大きい」と実感しました。

そういうことに刺激を受けながら、社会的効果というところで、市民の方の感動や知的好奇心といったものにも貢献できたらいいなと思っています。ちなみにその写真の右側にありますが、小学生向けのプログラミング教室をやっていただきました。そういうものもやらせていただいています。

「結びに」というところです。グローバル MICE 都市ということ、そして中期計画の中での位置付けなどに加えまして、去年の 12 月に横浜市観光・MICE 戦略を作りまして。MICE の戦略的誘致や受け入れ環境整備、社会的効果の拡大などに向けてしっかりと取り組んでいこうということで、政策も含めてやらせていただいています。[スライド 1.15]

横浜ではまたアフリカ開発会議や国際会議、あとは今、観光関係ですと IP 連携という言い方をしているのですけれども、国内外のアーティストさんとの連携もやっています。しっかりと MICE というところもやっていき、社会的効果の最大のところを推進していこうと、一生懸命やっています。

あとは、横浜は 2027 年に GREEN × EXPO2027 が開催されます。会場は上瀬谷で、都心部か

ら少し離れている郊外部です。接收されていた上瀬谷通信基地が接收解除を受けまして、現在、都市計画や区画整理が進められています。

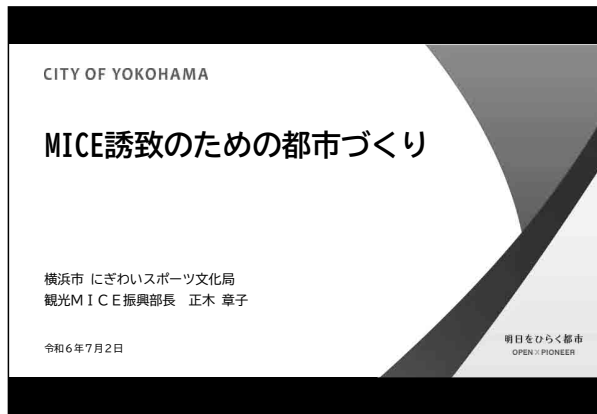
横浜市の取り組みを振り返ってみますと、上位計画があって、都市計画や個々の建築計画などのハードと、ソフト系をセットで考えてくる中で、相乗効果でやってきたのかなということです。引き続き取り組んでいきたいと思っています。

本当に、宇都宮市さんも駅前にできた施設も LRT も素晴らしいと思いました。私たちもしっかりとやっていきたいと思っているところです。

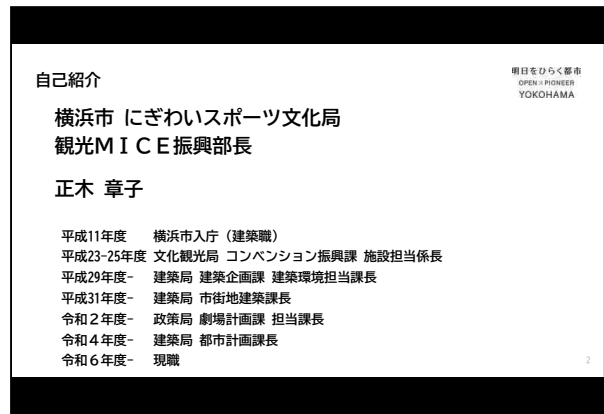
拙い説明だったかと思いますが、また事例紹介の中でも、ディスカッションでも加わりたいと思います。ご清聴いただきましてありがとうございます。

■司会

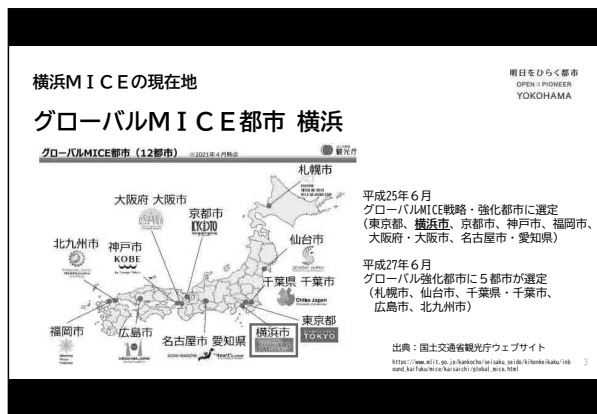
正木さま、どうもありがとうございました。



(1.1)



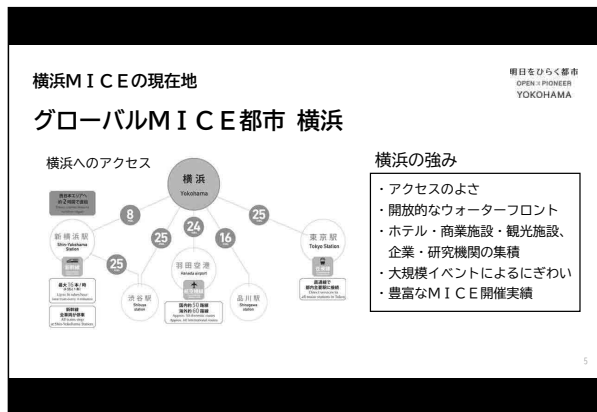
(1.2)



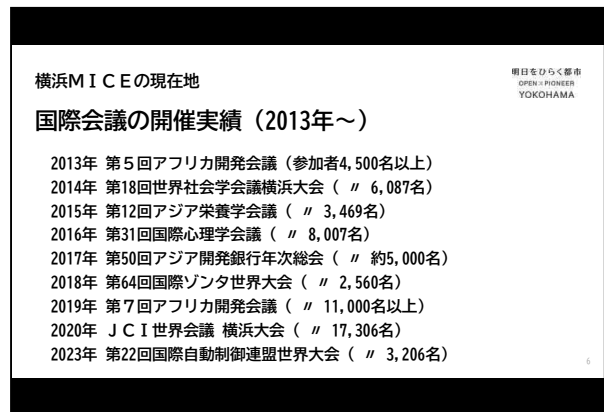
(1.3)



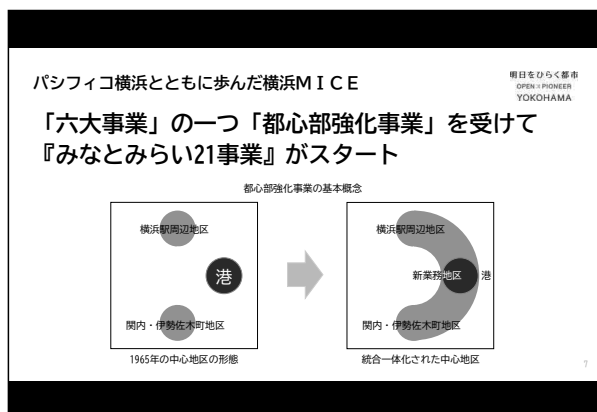
(1.4)



(1.5)



(1.6)



(1.7)



(1.8)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

パシフィコ横浜とともに歩んだ横浜MICE

MICE参加者をはじめとする来街者の需要に応じて
ホテルや商業施設、観光施設が集積



みなとみらい地区の
ホテル室数
6,193室(R6.6末現在)

9

(1.9)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

パシフィコ横浜とともに歩んだ横浜MICE

みなとみらい地区の現在地

みなとみらい21地区の開発や事業活動がもたらす
横浜市内への経済波及効果を推計しました！

みなとみらい21地区の経済波及効果は、横浜市長官庁発表の公表に合わせて概ね5年ごとに推計しています。
このたび、令和3年度の産業連関表の公表を踏まえ、経済波及効果の推計結果をとりまとめました。
地区内における地区開発の進捗とともに建設投資や都市機能も進展に期待し、市内経済へも大きく寄与していることが伺えます。

- 建設投資による市内への経済波及効果
事業着手（昭和56年）からの道路・公園等のインフラ整備、横浜ランドマークタワーをはじめとした建物建設など、建設投資による市内への経済波及効果の累計額は、約3兆4,968億円になります。
- 都市機能による市内への経済波及効果
令和2年度の1年間に飲食・サービスなどの個人による消費（消費増進効果）や、企業の生産活動に伴う消費（設備増進効果）及びレジャー消費でのMICE客による消費など、都市機能による市内への経済波及効果は、約2兆846億円になります。

出典：横浜市記者発表資料（令和4年5月20日）抜粋

10

(1.10)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

みなとみらい地区の開発（ハード面）はほぼ完了

次のフェーズ

市域の経済波及効果の最大化を目指して
市民や企業・団体とともに、まちが一体となって
MICE来街者をお迎えする環境づくり（ソフト面）

11

(1.11)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

MICEの戦略的誘致の加速

ターゲットは、経済効果の高い中大型の国際会議
や医学会議、ビジネスイベント



12

(1.12)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

MICE参加者の回遊性向上と受入環境整備
アフターコンベンションの充実等により
経済効果の最大化



ユニークベニュー

体験型ツアー

13

(1.13)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

MICE開催による社会的効果の拡大
ビジネス機会やイノベーション創出



市内企業の出展支援

次世代育成事業

14

(1.14)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

結びに

2023年12月策定の横浜市観光・MICE戦略に基づき

- ・MICEの戦略的誘致
- ・MICEの受入環境整備
- ・MICE開催による社会的効果の拡大

を推進していきます



15

(1.15)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

ご清聴ありがとうございました

16

(1.16)

事例紹介

①

「新潟市における MICE の現状について」

公益財団法人新潟観光コンベンション協会副理事長

木村 勇一 氏

新潟観光コンベンション協会の木村と申します。本日はこのような機会を頂きまして誠にありがとうございます。

ようやく宇都宮市に来ることができました。前職で新潟市役所に勤務していた際、3回ほど宇都宮市さんに出張する機会がありました。ところが不思議なことに、直前になるといつもトラブルが発生して、代理に行ってもらおうということで、宇都宮市さんとはあまり縁がないのかなと思っていました。今回こういう機会を頂き、すぐに手を挙げさせていただきました。

ぜひとも宇都宮市さんの経済活性化の一助になりたいと思い、日帰り予定のところ1泊していくと決めました。今回はジャズと餃子はもとより、新たな宇都宮の魅力を発見して帰りたいと思っています。

それでは、時間の都合もありますので、早速新潟市の MICE の現状について、目次のとおり4点、簡潔にご説明します。[スライド 2.2]

まずは新潟市の MICE 開催状況についてです。本市には、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターという県内最大級のコンベンション施設があります。この朱鷺メッセは新潟市の中心部にあり、新潟駅から車で5～6分、徒歩でも20分程度に位置しており、信濃川の河口に面しています。

展示ホールや大小13の会議室、そしてホテルが一体化した複合型コンベンション施設です。先ほど横浜市さんのパシフィコ横浜の話を聞き、大人と子どもぐらいの差があると思いましたが、日本海側では有数のホテル一体型のホールとなっています。主な収容可能人員は、展示ホールで最大1万人、メインホールで1,000人、国際会議室で540人などとなっています。

各ホールの稼働率は良好で、大規模会議はもとより、有名アーティストのコンサートや屋内スポーツの大会などで活用されています。ピーク時には2日間で約14万人の来場があった「にいがた酒の陣」も、こちらで開催されています。また昨年5月には、G7財務大臣中央銀行総裁会議を開催したほか、G20やAPECなど政府レベルの国際会議の開催実績もあります。

また、朱鷺メッセの隣には、約1,500人収容可能な万代島多目的広場があります。新潟では通称「大かま」と呼んでいますが、かまぼこ形をした旧魚市場で、朱鷺メッセと併用利用し、港の風景とマッチしたイベント開催が可能となっています。[スライド 2.3]



そして本市には、朱鷺メッセ以外にも大規模な MICE を開催できる施設が幾つかあります。新潟市民芸術文化会館は通称「りゅーとぴあ」とも呼ばれており、2,000 人収容のコンサートホール、900 人収容の劇場、またユニークベニューとしても利用される約 400 人収容の能楽堂などがあります。この施設も複数の会議室を持ち合わせていて、本格的な音楽イベントから、MICE などの各種大会や会議の会場として、幅広い用途で利用されています。また、新潟市産業振興センターは最大 5,500 人収容可能で、本格的な展示会や見本市、集会などで利用されています。この他にも内容や規模に応じて多種多様な MICE に対応できるコンベンション施設を備えています。

なお、市内中心部には 43 施設、約 7,500 室の宿泊施設があり、約 1 万 1,000 人の収容能力があります。数千人クラスの大規模な MICE にも対応可能となりますが、コンサートやスポーツなど他の大規模なイベントと重なった時には宿泊施設の確保が難しく、ご不便をかけていますので、もう少し宿泊施設が欲しいところです。[スライド 2.4]

次に、MICE の開催実績についてです。スライドのグラフは県外から参加者のある学会、大会・会議、競技会などの開催状況となっています。コロナ前の 2018 年度には、過去最高の 250 件の開催がありましたが、新型コロナウイルスの影響により、2020 年度から 2022 年度は大きな落ち込みがありました。しかしながら、昨年 5 月の 5 類移行により、徐々に回復してきており、今年度の開催件数は約 200 件、総参加者数は 10 万人に達すると予測しています。また、参加者数が 3,000 人以上の大規模なコンベンションにつきましては、表に赤字で表記した通り、例年 5～6 件となっています。

大規模コンベンションの開催時は朱鷺メッセ全館を貸し切り利用する必要がありますが、各ホールや会議室の稼働率が高く、MICE 開催シーズンである春や秋などは 2～3 年前には予約が埋まるため、会場確保や他の施設への振替などが課題となっています。[スライド 2.5]

次に経済効果についてです。毎年 MICE 参加者からアンケートをとっておりまして、昨年度は 2,000 人以上のサンプルを徴収しました。その結果、1 開催につき 1 人当たりの平均消費単価は約 4 万 2,000 円で、昨年度開催されたコンベンションの総参加者数 9 万 5,652 人に消費単価の 4 万 2,025 円を乗じて算出すると、新潟市内には約 40 億 2,000 万円の直接消費経済効果があつたものと推定をしていますが、これが例年ベースまで回復すれば、約 50 億円の経済効果を上げられると思われます。[スライド 2.6]

このように MICE の開催は地域に大きな経済効果をもたらしますが、施設数は決まっており、また新たな施設の確保は難しく、参加者数の増加も限界がある中、今後は平均消費単価を上げること、および滞在日数を増やしていただくことが重要であると考えています。

次に誘致体制についてです。当協会の MICE 誘致推進部には現在 7 人の職員が在籍していますが、新潟県および新潟市の MICE 担当セクション、朱鷺メッセの誘致担当セクションと合わせて、4 者で情報を共有しながら連携して MICE 誘致活動を行っています。そのほか、PCO や宿泊事業者、旅行業者などで組織されている「新潟 MICE サポート」という民間組織とも連携を取って取り組んでいます。

また MICE のみならず、文化・スポーツイベントや合宿誘致・支援に取り組む「新潟市文化・

スポーツコミッション」の業務も行っています。他都市でもスポーツコミッションは多く組織されていますが、文化を含めたコミッションは数少なく、ロンドンオリンピックの際、文化プログラムの取り組みを見た当協会が国内で最初に設立をしました。現在は当協会と金沢市さんに文化・スポーツコミッションがあります。

MICE および文化・スポーツコミッションのセールス活動につきましては、地元の大学や同業種組合をはじめ、首都圏での主催者セールスを数多く行っています。首都圏には、MICE で年間約 150 件、文化・スポーツコミッションで約 100 件、合計約 250 件のセールスを毎年行っています。また、宇都宮観光コンベンション協会さんをはじめ、他の地方都市と連携した誘致セミナーや商談会などにも積極的に参加しています。[スライド 2.7]

次に MICE の開催支援についてです。コンベンション補助金につきましては、新潟県と新潟市の両方に補助金制度があります。国際会議の場合、新潟県で最大 850 万円、新潟市で最大 350 万円、合計で最大 1,200 万円まで併用しての利用が可能です。詳細につきましては、後ほど当協会ウェブサイトでご確認いただければと思います。[スライド 2.8]

次に、MICE 開催における補助金以外の支援につきましてご説明いたします。1 番目のアトラクション助成制度は、コンベンション開催時に本市の伝統芸能などを活用していただく際の助成金です。またエキスカッション助成制度は、開催中および前後に、団体で観光する際のバスや水上バスなどの助成金です。

次に歓迎メッセージですが、今年 3 月の新潟駅リニューアルに合わせ、当協会で運営している観光案内センターを新幹線および在来線の改札口正面に移転しました。当センターの入口上部にウエルカムボードとして、デジタルサイネージによる歓迎メッセージを多言語も含めて掲載しています。

この観光案内センターには 3 面 LED サイネージをはじめ、ムービングプロジェクターなど最新のサイネージを多用しており、観光案内センター閉店時にも新潟の四季やイベントの PR を行っています。また、新潟空港では約 160 インチの大型デジタルサイネージにて参加者の皆さまに向けた歓迎メッセージでお出迎えをしています。

このほか、コロナ禍に貸し出し用として購入したサーマルカメラや大型モニターなどの備品も無償貸し出しをしていますし、にいがた観光親善大使の無償派遣、観光パンフレット・コングレスバッグの無償提供なども行っています。[スライド 2.9]

次に新潟市文化・スポーツコミッションについてです。業務としては、文化・スポーツなどの競技大会や合宿、イベントなどの誘致支援活動を中心に行っています。目的は「交流人口の拡大による地域経済の活性化」で、MICE 誘致と同様の取り組みです。

2013 年 10 月に新潟市文化・スポーツコミッションを設立し、これまで多くの誘致支援実績を上げていますが、中でも 6 月 27 日から 30 日にデンカビッグスワンスタジアムで行われた「日本陸上競技選手権大会」は、今回で 3 回目の開催を迎え、今年はパリオリンピックの予選も兼ねていたため非常に盛り上がり、多くのメディアにも取り上げられました。

また、現在は「新潟県 e スポーツ連合（仮称）」の立ち上げに際し、新潟市文化・スポーツコミッ

ションとして支援をしています。今後はeスポーツの国内はもとより、国際大会の開催に向けて関係機関と連携をより強化していきたいと考えています。[スライド 2.10]

最後の課題については、SWOT 分析をしました。

まず、内部環境の強みは、朱鷺メッセの存在、補助金制度の充実、また空港・駅・高速道路など交通結節点としての首都圏や全国主要都市からの交通利便性、食・酒・伝統文化を活用したアフターコンベンションの開催などが新潟の強みであると考えています。

逆に弱みとしては、朱鷺メッセの稼働率が高く予約が取り難いこと、新潟駅から朱鷺メッセへのアクセス環境が弱いこと、また外資系などのグローバルブランドのホテルや知名度の高い観光スポットがないことなどが挙げられると思います。

外部環境による機会については、G 7 や APEC、G20 などの政府レベルの国際会議を多数経験していますので、そのノウハウを持っていること、ハイレベルな会合の開催による知名度が高いこと、また今年の春にリニューアルした JR 新潟駅高架化と改修に伴う利便性の向上などが挙げられるのではないかと思います。

最後に脅威としましては、宇都宮市さんをはじめ、国内に新たなコンベンション施設が複数完成し競争が激化していること、また他都市でも本県・本市以上の補助金を制度化しているところもあり、補助金額だけの競争になって欲しくないという思いもあります。また横浜市さんをはじめとした「グローバル MICE 都市」への政府による重点的な支援も気になるところです。[スライド 2.11]

以上のように、強みや機会を活かし、課題解決に向けて努力をしながら、地元にあるコンベンション施設等と連携し、食や酒、みなとまち文化が織りなす新潟ならではのおもてなしで、今後も新潟市における MICE 開催の推進と地域経済の活性化に尽力していきたいと考えています。

◆須賀

ありがとうございました。さすがに宇都宮より 20 年先輩ですので、いろいろな取り組みをされていて大変勉強になりました。

「MICE都市」の創造に向けて
一 産官学民による誘致戦略を考える 一

新潟市における MICEの現状について

2024年 7月2日

公益財団法人新潟観光コンベンション協会 副理事長 木村勇一

(2.1)

- 1 新潟市のMICE開催環境
- 2 開催実績
- 3 誘致体制
- 4 課題（SWOT分析）

(2.2)

新潟市のMICE開催環境

〇朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

ホテル日航新潟

展示ホール(最大10,000人)

朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)

国際会議室 (最大540人)

【隣接施設】 万代島多目的広場(大かま)

・屋内面積 2,470㎡
・最大収容 約1500人

メインホール (最大1,000人)

(2.3)

新潟市のMICE開催環境

〇新潟市民芸術文化会館(りゅーとびあ)

劇場(最大900人)

コンサートホール (最大2,000人)

能楽堂(最大387人)

〇新潟市産業振興センター

展示ホール(最大5,500人)

宿泊施設(市内中心部)

・宿泊施設数:43施設
・客室数:約7,500室
・収容人数:約11,000人

(2.4)

開催実績

コンベンション開催件数の推移

新潟市内で開催された県外から参加者のある「学会、大会・会議、競技会など」の件数

※参考 「2023年度朱鷺メッセ稼働率」
〇展示ホール：約64%
〇メインホール：約76%
〇国際会議室：約59%

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
開催件数(件)	240	250	182	18	52	132	172
(P3,000人以上)	[5]	[6]	[4]	[0]	[0]	[5]	[5]
総参加者数(人)	111,591	131,464	91,213	9,152	19,234	64,434	95,652

(2.5)

開催実績(経済効果)

コンベンション参加者による直接経済効果

2023年度開催コンベンション総参加者数：95,652人

1人当たりの平均消費単価(アンケートより)：42,025円/人

※平均消費単価の項目

- ・宿泊費：16,707円
- ・現地交通費：4,100円
- ・飲食費：11,608円
- ・土産、買物費：5,630円
- ・遊興、娯楽費：1,263円

参加者(95,652人)による直接消費経済効果
約40億2千万円

※2023年度当協会によるMICE参加者からのアンケート結果より(サンプル数：2,116人)

(2.6)

誘致体制

【体制】(公財)新潟観光コンベンション協会 MICE誘致推進部 7人 ※新潟市文化・スポーツコミッションも兼務

他に...

- 〇「新潟県」及び「新潟市」MICE担当セクション
- 〇「朱鷺メッセ」誘致担当セクション

目的は同じ!!

上記4者で情報を共有しながら誘致・支援活動

【主なMICE誘致事業】

- (1) 地元の大学、各種同業種組合などへのセールス活動(随時)
- (2) 首都圏など学会系・大会系本部へのセールス活動(年：約150件)
- (3) 誘致セミナー、商談会等の開催によるプレゼンテーション(年：5回)

(2.7)

誘致体制(支援制度)

MICE開催支援制度

新潟県及び新潟市の「コンベンション補助金制度」

新潟県コンベンション開催賞補助金制度(窓口)新潟観光企画課 上限850万円

新潟市コンベンション開催補助金制度(窓口)(公財)新潟観光コンベンション協会 上限350万円

新潟県、新潟市の補助金は併用可能
併用することにより最大1,200万円までの補助が可能

(2.8)

誘致体制(支援制度)

その他の支援制度

- (1) アトラクション助成制度 (伝統芸能等の出演料の1/2、上限20万円)
- (2) エキスカーション助成制度 (バス、水上バス等の借上料の1/2、上限20万円)
- (3) 新潟駅、新潟空港のデジタルサイネージへ歓迎メッセージの掲出
- (4) サーマルカメラ、デジタルサイネージ等備品の無償貸出
- (5) 「にいがた観光親善大使」の派遣 (1開催1名まで無償)
- (6) 観光パンフレット、コンgresバッグの無償提供




新潟駅内 観光案内センター サイネージ 新潟空港 サイネージ

(2.9)

新潟市文化・スポーツコミッションの活動

○文化、スポーツなど各種競技大会や合宿を誘致・支援する活動
○文化的なイベントを誘致・支援する活動

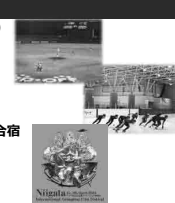
スポーツ大会や合宿、文化的なイベント開催による 交流人口の拡大、地域経済の活性化

誘致・支援実績

《大会》 ● 世界ゲートボール選手権大会 (20カ国・地域)
● 日本陸上競技選手権大会
● 日米大学野球選手権大会
● 日中韓学生卓球交流戦
● 全日本選抜選抜軟式野球大会

《合宿》 ● スケートショートトラック日本代表合宿
● フィギュアスケートロシア代表平昌五輪直前合宿
● 侍ジャパン女子野球日本代表合宿

《文化イベント》 ● 新潟国際アニメーション映画祭



※「新潟県eスポーツ連合(仮称)」の立ち上げを支援
eスポーツ大会の開催に向けて関係機関との連携を強化していく

(2.10)

課題(SWOT分析)

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み(Strengths) ○ホテルが隣接する複合型コンベンション施設・朱鷺メッセの存在 ○全国トップクラスの補助金制度 ○首都圏及び主要都市からの交通の利便性(上越新幹線、新潟空港、各高速自動車道) ○新潟県、朱鷺メッセとの連携・情報交換 ○医療系の大学が市内に複数存在 ○食・酒・文化(古町芸妓等)をアフターコンベンションに活用できる	弱み(Weaknesses) ○朱鷺メッセの稼働率が比較的高くMICEシーズンの春、秋は予約が取り難い ○新潟駅から朱鷺メッセのアクセス環境が弱い ○外資系などグローバルブランドのホテルが無い ○知名度の高い観光地(施設)が無い ○ユニークベニューとして利用する会場が少ない
外部環境	機会(Opportunities) ○ハイレベル国際会議(APEC、G7、G20等)の開催実績による知名度アップ ○国を挙げてMICE・国際会議誘致の積極的な推進 ○JRN新潟駅高架化、改修に伴う利便性のアップ ○隣接都市にあるコンベンションセンターの大規模改修による休館	脅威(Threats) ○国内における新たなコンベンション施設完成による更なる競争激化(宇都宮、高崎、長崎等) ○コンベンション補助金の補助金額の高騰 ○グローバルMICE都市など観光庁による主要都市への重点的な支援 ※グローバルMICE都市(12都市) 東京・横浜・京都・神戸・福岡・名古屋・大阪・札幌・仙台・千葉・広島・北九州

(2.11)

事例紹介

②

「宇都宮市におけるMICEの実績、誘致等体制、課題」

一般社団法人宇都宮観光コンベンション協会常務理事

鈴木 孝美 氏

皆さん、こんにちは。宇都宮観光コンベンション協会の鈴木です。それでは時間の関係もありますので、早速説明に入らせていただきます。

まず2ページです。MICE 推進に係る宇都宮のこれまでの取り組み経過です。まず、背景としましては1つ目の矢印にありますように、少子・超高齢化社会、それと人口減少時代の到来があります。人口減少が消費活動の減少を招く、あるいは生産年齢人口の減少が都市の生産力の低下を招くということで、経済規模の縮小が、都市の活力低下の悪循環を生み出すことが想定されます。こういったことを避けて持続的経済成長を図るための取り組みとして、今回MICEが始まりました。



MICE に取り組む目的としては主に2点あります。まず1つ目は、経済・消費活動の裾野が広く、大きな経済波及効果が期待できるということです。2つ目は、交流人口の拡大により、新たなビジネス・イノベーション機会の創出等が期待されるということです。

こうした背景あるいは目的の下、これまでの取り組みの経過としましては、1つ目に、令和4年の3月に「宇都宮市 MICE 戦略」を策定しました。2つ目ですが、そのために令和4年度4月から、宇都宮市と観光コンベンション協会に MICE の専任組織を設置しました。そして5つ目のポチにありますように、官民一体となった MICE 推進を図るために「宇都宮 MICE ネットワーク」を設置したといった状況にあります。[スライド 3.2]

続いて3ページ目です。こちらは宇都宮市の MICE 戦略についてです。MICE 戦略はこの図にありますように、市民や教育機関、民間組織などの地域のさまざまなステークホルダーがオール宇都宮で MICE を連携して推進することで、一番上にありますが、魅力と交流を創出し続ける都市、「MICE 交流未来都市・うつのみや」を実現しようというものです。[スライド 3.3]

4 ページです。先ほどの「目指す将来像」の実現に向け、ここに記載のとおり、基本施策の1の宇都宮の強みや特徴を生かした MICE の誘致から、基本施策の4のオール宇都宮による推進体制の構築まで、こういった4つの基本施策を掲げて取り組んでいます。詳細については後ほどご覧いただければと思います。[スライド 3.4]

続いて5ページ目です。宇都宮市における推進体制についてです。これは先ほどの、基本施策

の4のオール宇都宮での推進体制の部分ですが、この図の右側は市になります。市が主に企画立案、そして左側の観光コンベンション協会は現場の実施と、こういった役割を担いながら、一番下の MICE ネットワークの皆さま方と三位一体となって MICE の誘致あるいは支援に取り組む体制を構築し、現在取り組み中ということです。[スライド 3.5]

続いて6ページです。MICE ネットワークのイメージを記載したものです。このネットワークでは、経済や教育、金融、宿泊、交通、観光などの幅広い分野から 34 団体に参画をいただき、各団体の強みを生かし、互いに補完し合いながら、オール宇都宮で MICE を推進しています。ちなみにこちらの MICE ネットワークの会長に、須賀先生にご就任いただいています。[スライド 3.6]

7 ページです。その 34 団体の詳細です。記載のある 34 団体にご参画をいただき、一番下に令和5年度の取り組みを記載しています。年2回定例会を開催し、市や協会の取り組みの共有、また情報交換会での課題や事例の共有、MICE セミナーの開催などを行っています。また、具体的にお互いに連携をした取り組みということで、MICE 誘致のチラシを制作して大学で配布したり、あるいは商談会に MICE ネットワークの会員の方に同行いただいたりと、そういった連携をしています。[スライド 3.7]

続きまして8ページです。ここからは MICE 戦略に基づく実際の取り組みにつきまして、誘致と支援に分けてお話をさせていただきます。

まず誘致についてです。(1) にありますように MICE の誘致セールスでは、学会や団体、大学教授等に対して訪問セールスを実施しています。件数は記載のとおりです。特に首都圏を中心に、今、重点的にセールスをかけているところです。また(2)として商談会や学術大会への出展ということで、都内の催事主催者や旅行会社、PCO に向けた商談会や学術大会で PR ブースを出展し、MICE の開催決定権を持つ「キーパーソン」にセールスを実施しているという状況です。[スライド 3.8]

9 ページです。(3) にありますようにキーパーソン^{しょうへい}招聘事業ということで、年2回開催しています。これは開催地の決定権を持つキーパーソンや PCO の方に本市においていただき、本市での MICE の開催の魅力を PR している事業です。令和5年度は 31 名の方においていただき、うち4催事が本市で開催決定となりました。

また(4)としましては、官民が連携したセールス体制の構築です。市内の事業者の方々がキーパーソンへ誘致活動をする際の交通費や宿泊費の一部を助成する、ここに記載のような誘致促進補助金といったものを令和5年度に創設をして、活動をしているという状況です。制度の概要はそこに記載のとおりです。[スライド 3.9]

10 ページのその他の誘致事業です。5つほど書いてありますが、MICE 専門誌の『MICE JAPAN』というものがあります。そういったものへの広告の掲載、あるいは専門サイトや MICE プロモーション動画の作成・活用ということで、それぞれ英語版もありまして、それで PR をしています。QR コードも付いていますので、後ほどご覧いただければと思います。[スライド 3.10]

続きまして11ページです。こちらは MICE 支援に係る取り組みについてです。まず(1)とい

うことで、コンベンション開催支援補助金の交付をしています。国際コンベンションで最大 500 万円、そして国内コンベンションで最大 300 万円という補助制度を持っています。さらにそのほかの補助ということで、下にありますようにシャトルバスの運行補助金、エクスカッション補助金などがあります。また、令和 6 年度からケータリング支援補助金というものを創設し、こういったものもご活用いただくようにしました。[スライド 3.11]

また、12 ページは参加者の歓迎および開催サポート支援です。こちらは主催者の要望に応じて会場内へのお土産コーナーの設置あるいは懇親会等のアトラクションの手配、こちらに書かれたようなもので開催のサポートを実施しています。[スライド 3.12]

13 ページです。その他の支援事業ということで、記載のとおりコンベンションバッグの提供や、あとは歓迎サイネージ、これは JR 宇都宮駅の新幹線改札を出たところに設置します。その他、この写真にあるようなバナースクリーンの貸し出しをして、会場のにぎわいづくりなどに利用していただいている状況です。[スライド 3.13]

14 ページです。各種取り組みによる宇都宮市における MICE 実績についてです。令和 4 年の 11 月にライトキューブ宇都宮の供用開始により、開催件数・参加人数は想定を上回る伸びを見せています。令和 5 年度は 212 件が開催され、15 万人以上に参加いただきました。また、その右側にあります令和 5 年度の経済効果、これは直接効果ですが、15.7 億円と算出しました。ちなみに先ほどの MICE 戦略の中では、令和 8 年度に目標値として 220 件、そして経済効果は 22 億円を掲げてやっているとあります。

なお、件数の伸びに比べて経済効果が若干伸びていないのは、今回の令和 4 年度から令和 5 年度の伸びのほとんどをライトキューブの日帰りのイベントが占めているという状況だったからです。なかなか一人当たりの消費単価が、宿泊ありの学会や大会に比べてかなり落ちるということもあり、消費効果全体としてはちょっと伸びなかったということです。今後は宿泊を伴う学会や大会、あるいは国際 MICE を積極的に誘致していく必要があると考えています。[スライド 3.14]

続きまして 15 ページです。MICE を取り巻く課題です。現在の MICE の喫緊の課題としては、記載のように、国際 MICE の積極的誘致と官民一体となった誘致・受け入れ態勢の強化、これが大変重要と考えています。

国際 MICE の積極的誘致につきましては、やはり消費単価が一般の観光に比べましてかなり高いという状況もあります。先ほどの、MICE 戦略の目標値が 22 億円と、これを達成するためにも、経済効果の高い国際 MICE の獲得に向けて取り組む必要があると考えています。

また 2 つ目の、官民一体となった誘致・受け入れ態勢の強化につきましては、MICE ネットワークのメンバーも含めた市内の官民のさまざまなステークホルダーが、MICE 開催の意義や効果といったものを共通理解した上で、それぞれが強みを生かし、そして補完し合いながら、それぞれが自分たちのメリットを享受できるような形で取り組んでいく必要があると考えています。[スライド 3.15]

続いて 16 ページです。課題解決に向けた令和 6 年度の主な取り組みを記載しました。まず国際 MICE の積極的誘致につきましては、1 つ目が、国際会議の開催に向けた誘致セールスの強化

です。英語版の「コンベンションガイド」の活用、そして「Japan MICE EXPO」などの、数多くの海外のバイヤーや PCO が参加する商談会への出展を考えています。

また2点目で、海外プロモーション・セールス体制の整備ということで、今年の4月から協会内に英語対応ができる人材を配置しています。

また3つ目としましては、国際会議向けプロモーションツールや広域連携コンテンツの作成です。本市の魅力あるいは開催のメリットを盛り込んだ「セールスシート」を作り、商談会で活用していきたいと考えています。また、他都市との連携は大変重要と考えていますので、連携をしながらユニークメニューやエクスクーショのメニューを作っていきたいと考えています。

また4点目の、JNTO、日本政府観光局との連携も大変重要だと思います。JNTO や観光庁等とのネットワークを強化して、海外 MICE に関する情報収集・発信の強化や課題解決策の検討に取り組んでいきたいと考えているところです。

また、官民一体となった誘致・受け入れ態勢の強化につきましては、「コンベンションビューロー支援事業」、これは観光庁の事業で、地方都市を対象にコンサルティングの支援を頂けるということで、先月採択をされたところです。こういったものを活用しながら取り組んでいきたいと考えています。

また、そのほかにはやはり広域連携での受け入れ、協力体制の構築、さらには各種学会や大会・催事等に関する顧客データの蓄積とデータに基づく効果的・効率的な誘致、こういったものにも取り組んでいきたいと考えています。[スライド 3.16]

最後の17ページです。今後取り組むべき課題ということで、短期的、あるいは中長期的なものも入っています。

1つ目としましては、インバウンドも見据えた「食」の多様性への対応や、さらには、さらなる多言語化の推進ということで、「ハラール」や「コーシャ」、「ベジタリアン」、そういったものに対応できる飲食店情報を早急に集めたいと考えており、また、MICE 施設周辺の店舗等の案内の多言語化も必要だと思っています。

2点目としましては、MICE キーパーソンとの人的ネットワークの構築ということで、特に首都圏等の大学や企業等との「人的ネットワークの構築」をしていきたいと考えています。

また3つ目としましては、ナイトタイムコンテンツの強化・充実ということで、アフターコンベンションを楽しんでもらえるような情報提供の仕組みが必要かと思います。これは、泊まっていただく仕掛けということで、大変重要だと考えています。

また、そのほかには MICE 情報の発信強化や DX の推進というものもあります。さらに最後には、やはり「SDGs」の視点を取り入れた開催支援も必要と考えています。特に主催者に開催地として選んでいただくためには、「SDGs」の視点というのはやはり欠かせないということで、こういったものにも積極的に取り組みながら、主催者や参加者の満足度の向上に取り組んでいきたいと考えています。[スライド 3.17]

以上が宇都宮の事例紹介です。大変駆け足での説明で分かりにくいところもあったと思いますが、ご容赦いただければと思います。ご清聴ありがとうございました。

◆須賀

ありがとうございました。宇都宮も2年間ですけれども、矢継ぎ早にさまざまな政策を打ち出しています。ぜひ皆さまもご理解をいただければありがたいと思います。



(3.1)

1. MICE推進に係る宇都宮市の取組経過

【背景】

- 都市をめぐる社会展望として、少子・超高齢社会と人口減少時代の到来があげられる。
- 人口減少は消費活動の減少を招くとともに、生産年齢人口の減少は都市の生産力の低下を招き、経済規模の縮小や投資余力の低下が懸念される。
- 宇都宮市においては、約51.6万人の人口(2022年3月1日現在)が2050年までに約42万人減少することが見込まれている。
- 経済規模の縮小は、人々の集積や交流を通じたイノベーションを生じにくくし、成長力が低下するといった、都市の活力低下の悪循環を生み出すことが想定される。
- そのため、持続的経済成長を図るため、宇都宮市の強みを活かした経済の活性化に向けた取組が求められている。

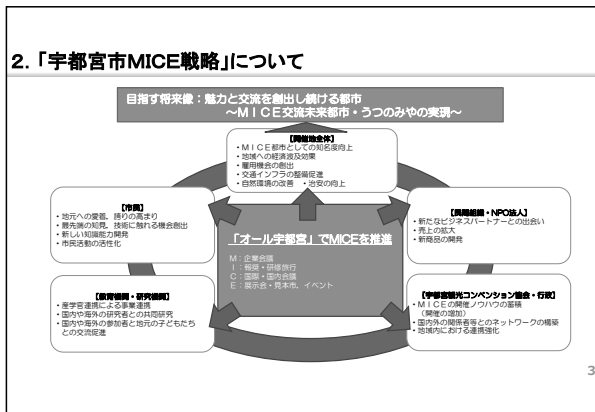
【MICEに取り組み目的】

- MICEは、会議開催、宿泊、飲食、観光など経済・消費活動の裾野が広く、大きな経済波及効果が期待される。
- 国内外からの交流人口の拡大により、新たなビジネス・イノベーション機会の創出が期待される。
- MICEを通じた人や情報の流通、ネットワーク構築の容易さなどは、都市の競争力やブランドイメージの向上につながることを期待される。

【これまでの取組経緯】

- 「宇都宮市MICE戦略」の策定(令和4年3月)
- 宇都宮市・宇都宮観光コンベンション協会への専任組織の設置(令和4年4月)
- 「ライトキューブ宇都宮」の供用開始(令和4年11月)
- 宇都宮市総合計画の施策等に「MICE推進」を位置付け(令和5年2月)
- 官民一体となったMICE推進を図る「宇都宮MICEネットワーク」の設置(令和5年3月)

(3.2)



(3.3)

2. 「宇都宮市MICE戦略」について

- 宇都宮市MICE推進における「目指す将来像」の実現に向け、以下の基本施策を掲げる。
- また、基本施策に基づく基本事業を設定し、これらに産官学が一体となり取り組む。

基本施策1 宇都宮の強みや特徴を活かしたMICEの誘致

マーケティングに基づく戦略的な誘致活動を展開するとともに、宇都宮市の魅力を訴求できるようプロモーションの強化に取り組むことで、多くのMICE獲得を目指す。

基本施策2 開催支援・プログラム内容の充実

主催者の問合せにワンストップで応える窓口の設立等のサポート内容の充実や宇都宮の資源を活用したユニークメニューの開発など、MICE開催支援・プログラム内容の充実を図ることで、多くのMICE獲得を目指す。

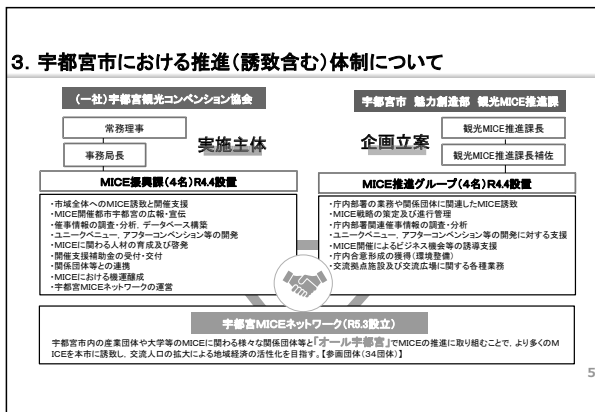
基本施策3 宇都宮ならではの強みや資源の有効活用

MICE開催を促進したビジネス機会の創出や地域産業の国内外へのPRに取り組むとともに、産業振興や工場見学等のテクニカルビジットの受入先の拡充を図ることで、MICE開催を通じた地域産業の活性化を目指す。

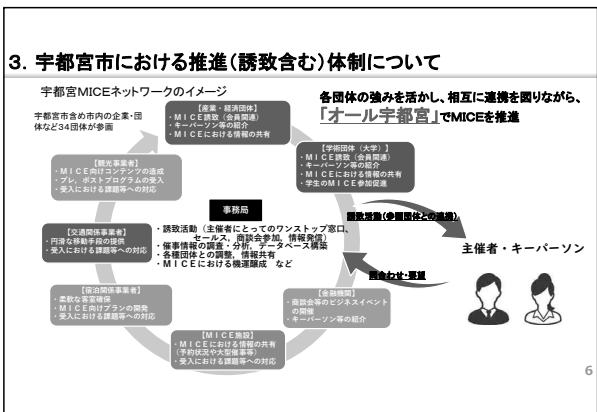
基本施策4 オール宇都宮による推進体制の構築

宇都宮としてMICEを実行するための体制を確立するとともに、MICEに関わる多様な人材の育成や地域の機運醸成など、MICEにおける推進体制の高度化を目指す。

(3.4)



(3.5)



(3.6)

3. 宇都宮市における推進(誘致含む)体制について

構成団体(34団体)		
1 うつのみや産業振興協議会	12 柳井銀行	23 東日本旅客鉄道
2 栃木県経済同友会	13 柳井銀行	24 東京旅客鉄道
3 宇都宮商工会議所	14 宇都宮駅東口交流拠点施設	25 宇都宮ライトレール
4 宇都宮大学	15 宇都宮市文化会館	26 関東自動車
5 宇都宮市立大学	16 栃木県総合文化センター	27 宇都宮タクシー協議会
6 宇都宮市立大学・宇都宮市立大学女子短期大学	17 栃木県立宇都宮産業展示館	28 宇都宮観光推進協議会
7 文芸芸術大学	18 宇都宮市ホテル旅館協同組合	29 宇都宮市観光土産品協会
8 宇都宮市立大学宇都宮キャンパス	19 宇都宮市立大学宇都宮キャンパス	30 株式会社下野新聞社
9 宇都宮市立大学	20 近畿日本ツーリスト宇都宮支店	31 株式会社とらぎテレビ
10 宇都宮市立大学	21 宇都宮市立大学宇都宮支店	32 株式会社フジエム栃木
11 国際医療福祉大学	22 東武トップツアーズ宇都宮支店	33 一社)宇都宮観光コンベンション協会
令和5年度の取組		34 宇都宮市観光MICE推進課

年2回定例会の開催

- 市や協会の取組の共有
- 情報交換会の開催
- MICEセクターの開催

連携した取組例

- MICE誘致チラシの制作
- 誘致チラシの大学内配布
- 大学教員や会員企業等への開催意向アンケート調査の実施
- MICE施設による協会セールス(商談会)への同行 等

(3.7)

4. MICE誘致に係る主な取組について(R4～5)

(1) MICE誘致セールス

⇒ 年間を通して、学会や団体、大学教授等に対して、本市開催の動機付けとなるよう市内コンベンション施設や開催支援補助費をまとめたガイドブックを活用しながら、訪問セールスを実施

セールス件数	R4年度	R5年度
うち官公庁等	300件	326件
うち県内	181件	257件
	119件	69件

(2) 商談会や学術大会への出展

⇒ 市内の催事主催者や旅行会社・PCO(会議専門会社)に向けた商談会や教授等が多く参加する学術大会にPRアースを出展し、MICE開催決定権を持つ「キーパーソン」に、セールスを実施

地方都市合同ワークショップ (年3回)

国際MICEエキスポ(ME) (年1回)

学術大会へ出展 (年2回程度)

(3.8)

4. MICE誘致に係る主な取組について(R4～5)

(3) キーパーソン招請事業(年2回開催)

⇒ 開催地決定権を持つキーパーソンやPCO等を本市に招請し、会場や観光施設の見学、エキスカッションの体験(視察ツアー)をしていただく。本市でのMICE開催の魅力をPR



(4) 官民が連携したセールス体制の構築(補助制度の新設)

⇒ 官民が連携した誘致活動を展開するため、市内事業者等がキーパーソンへ誘致活動する際の交通費や宿泊費の一部を助成する「コンベンション誘致促進補助金」を創設(※活動前の交付申請が必要)

【制度概要】「コンベンション誘致促進補助金」

補助上限：1名あたり15,000円(税込み)

要件：開催規模が関東大会以上であるもの、会期が2日以上であるもの等

対象経費：交通費、宿泊費及び見学費

※当該補助金は、キーパーソンが本市へ視察する場合も補助対象としている。

9

(3.9)

4. MICE誘致に係る主な取組について(R4～5)

(5) その他の誘致事業

◇ 宇都宮MICEセミナーの開催

◇ MICE専門誌への広告掲載
専門誌「MICE JAPAN」

◇ MICE専門サイトの更新・管理

◇ MICEプロモーション動画の制作・活用

◇ ノベルティグッズの制作・配布 など



専門誌「MICE JAPAN」に広告掲載

10

(3.10)

5. MICE支援に係る主な取組について(R4～5)

(1) コンベンション開催支援補助金の交付

⇒ 本市でのMICE開催を促進するため、開催費用の一部を助成する「コンベンション開催支援補助金」を交付

① 国際コンベンション	② 国内コンベンション
補助上限額【最大500万円】	補助上限額【最大300万円】
交付要件	交付要件
① 会期が2日以上で参加者数100名以上であるもの ② 会場、会場周辺施設の50%以上 ③ コンベンションの開催に要する経費総額の30%以内	① 会期が2日以上で参加者数100名以上であるもの ② 会場、会場周辺施設の50%以上 ③ コンベンションの開催に要する経費総額の30%以内
補助方法	補助方法
国内参加者 × 5,000円 国外参加者 × 2,000円	国内参加者 × 5,000円 国外参加者 × 2,000円

② その他の補助金

シニア向け
旅行補助金
最大
【30万円】

エキスカッション
補助金
最大
【20万円】

コロナ対策
補助金
最大
【5万円】

※令和5年度
「マーケティング支援補助金」を新設
一定の条件を満たした懇親会等のケータリ
ング利用費の一部を助成【最大20万円】

11

(3.11)

5. MICE支援に係る主な取組について(R4～5)

(2) 参加者歓迎及び開催サポート支援

⇒ MICE主催者や参加者の満足度の向上させるため、主催者の要望に応じて、会場内にお土産コーナーの設置や、懇親会等のアトラクションを手配するなど、開催サポートを実施。

【お土産コーナー設置】

「県外参加者等に地元特産品を味わってほしい」

会場の一隅に宇都宮餃子や大谷石工芸品、地酒等の土産品コーナーを設置

【懇親会の盛り上げ提案】

「懇親会を盛り上げるパフォーマンスをしてほしい」

宇都宮ブルックスチアの「ブレイクシー」を手配し、会場は大盛り上がり

【県内伝統芸能の紹介】

「懇親会で樹木の文化芸術を楽しんでもらいたい」

「喜連川公方太鼓」を手配し、大迫力の演奏には参加者から大きな拍手が

【国際会議のおもてなし】

「外国人参加者に地酒を楽しんでもらいたい」

「地酒体験ブース」を設置。協会で英語表記のメニューを制作し、おもてなしを実施

12

(3.12)

5. MICE支援に係る主な取組について(R4～5)

(3) その他の支援事業

- ◇ 観光パンフレットの提供
- ◇ コンベンションバックの提供
- ◇ 歓迎サインージの設置
- ◇ 歓迎ビラの掲出
- ◇ パナースクリーンの貸出 など



会場内にパナースクリーン6本を無料貸出

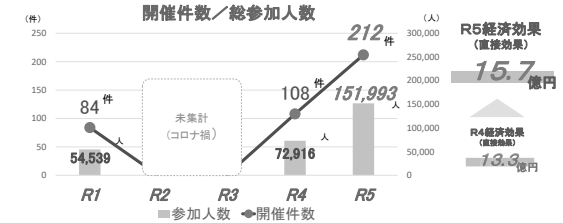
13

(3.13)

6. 宇都宮市におけるMICE実績

(1) MICE開催件数/総参加人数

⇒ 令和4年11月のライトキープ宇都宮の供用開始等により、開催件数・参加人数は想定を上回る伸びをみせ、令和5年度は212件が開催され、約15万人以上が参加している。



* 市内MICE施設の利用件数のうち、「学会」「総会・大会」「展示・商談会」「一般会議等(300名以上の会議・セミナー等)」に分類される催事より算出

14

(3.14)

7. 宇都宮市におけるMICEの課題

喫緊の課題

01

【国際MICEの積極的誘致】

国内MICEはもとより、経済効果・ブランディング効果の高い国際MICEの獲得に向け、計画的・継続的に取り組む必要がある。

02

【官民一体となった誘致・受入体制の強化】

「MICE」を重要産業の一つとして共通認識し、ステークホルダーが相互に連携しながら、各々がメリットを享受できるよう取り組む必要がある。

15

(3.15)

7. 宇都宮市におけるMICEの課題

課題解決に向けた令和6年度の主な取組

【国際MICEの積極的誘致】

- 国際会議の開催に向けた誘致セールスの強化
⇒ 英語版「コンベンションガイド」の作成・活用及び「Japan MICE EXPO」への出展 など
- 海外プロモーション・セールス体制の整備
⇒ R6. 4～英語対応できる人材を協会に配置
- 国際会議向けプロモーションツールや、広域連携コンテンツの作成
⇒ 本市の魅力や開催のメリット等を盛り込んだ「セールスシート」の作成・商談会等での活用
⇒ 他都市と連携したユニークベニューやエキスカッションメニューの造成
- JNTO(日本政府観光局)等との連携
⇒ JNTOや観光庁、その他観光関連企業・団体等とのネットワークを強化し、海外MICEに関する情報収集・発信の強化と課題解決策の検討などに取り組む。

【官民一体となった誘致・受入体制の強化】

- 「コンベンションビューロー支援事業※」への参画によるMICEネットワークメンバー間の連携強化
※ 観光庁が国際MICE誘致を目指している地方都市を対象にコンサルティング等の支援を行うもの。
- 広域連携(日光市等)による受入・協力体制の構築
- 顧客データの蓄積とデータに基づく効果的・効率的な誘致 など

16

(3.16)

7. 宇都宮市におけるMICEの課題

今後取り組むべき課題

- インバウンドも見据えた「食」の多様性への対応や、更なる多言語化の推進
 - ⇒ 「ハラール」や「ベジタリアン」などに対応できる飲食店情報の収集等
 - ⇒ MICE施設周辺店舗、街中、名所等における案内の多言語化 など
- MICEキーパーソンとの人的ネットワークの構築・強化
 - ⇒ 首都圏等の大学や企業等との「人的ネットワークの構築」による情報収集・PR
 - ⇒ キーパーソン・招聘事業等の継続 など
- ナイトタイムコンテンツの強化・充実
 - ⇒ 参加者にわかりやすく、希望に応じて店舗情報が簡単に取得できるような仕組みの構築
 - ⇒ ナイトタイムツアーの造成 など
- MICE情報の整備・強化やDXの推進
 - ⇒ 情報の一元化やデジタルマーケティングによる効果的な情報の収集・分析・発信
 - ⇒ 様々なサービスのスマート化 など
- 「SDGe」の視点を取り入れた開催支援
 - ⇒ 主催者に開催地として選択してもらえるよう「SDGe」に資する視点を取り入れた開催支援 など



宇都宮ホテルFORDIN NIGHTS



17

(3.17)



(3.18)

事例紹介

③

「地方都市の MICE 戦略」

株式会社コンベックス 代表取締役専務

西川 洋子 氏

こんにちは。コンベックスの西川です。どうぞよろしくお願いします。

今、3名の方、それから横浜市のお話も伺いましたが、全体的に皆さん、いわゆる行政の視点からお話をしてくださっていたと思います。私はPCOとして三十数年この仕事をしています。また、先ほど来お話に出ています、東口のライトキューブ宇都宮の指定管理業務も、弊社は受けています。その観点からいろいろとお話をさせていただきたいと思っています。

まず、地方都市の MICE 戦略を PCO、会議運営をする側の立場から、では地方都市としてはどうあるべきなのか、それから開催地として選ばれるためには何をすべきかと、いうことを簡単にお話ししたいと思っています。

皆さんご存じだと思いますが、PCO（Professional Congress Organizer）というのは、主催者ではありません。主催者から依頼を受けて、開催地あるいは開催会場、場所を探すのもわれわれの一つの役目です。その中で、探す条件の優先順位、何を基準に探すかということ、以下の順番です。

まずは、開催すべき会場があるかどうかです。次に、参加者が泊まれるホテル、宴会ができるホテル、それからレストランがきちんと備わっているホテルがあるかどうかです。それから次に、会場でのケータリングパーティーや、お弁当を供給していただく、そういったものが整っているかどうかということです。

次にアクセスです。宇都宮に関しては東京から約50分ということで、大変アクセスもよく、会議をライトキューブで開催した参加者の先生からお話を伺いますと、学会の場合ですが、「近いですね。八王子に行くよりもしかしたら近いかもしれないですね」と、「同じ都内よりより近い」というお声もありました。そういう意味でのアクセスです。

それから、地元自治体の支援です。これはもう言うまでもなく、今までお話しいただいた皆さんが取り組んでおられることです。それから、アフターコンベンションも言葉として出てきましたが、これは正直申しまして、プライオリティーとしては一番低いです。

まず会場からお話しますと、収容人数です。これは学会でも国際会議でも企業イベントでも全てそうですが、参加者が何人いるか、ではそれが入るだけの器があるかどうかということが、まず大前提となります。



その中で会場数です。例えば分科会がある会場で 100 人のパラレルで行われる会場が 5 会場なければならないなど、いろいろな条件があります。その条件に合わせた会場数、規模、そういったものが探す先の地にあるかどうかということです。

それから次に、各部屋のサイズです。中には劇場形式、映画館のような椅子が入ったような、コンサートもできるようなホールが必ず欲しいという要望があったり、展示会も併設するので、フラットな、大規模な会場も欲しいという声があったり、そういったいろいろなニーズがありますので、それぞれの形状やキャパシティも検討することになります。

次に設備、インフラです。今、コロナになってからですが、配信がかなり当たり前のように行われます。その場合、インターネット環境があるかどうか、それから会場内に Wi-Fi が飛んでいるかどうか、それから映像、音響、照明、そういったものが備わっているかどうかということです。

次に受け入れ態勢、いわゆるサービス体制です。ライトキューブに関しましては弊社の社員が今、予約を受け付けてから開催前に関するサポートを 6 名態勢で行っています。そこから現場に下ろすというサービス体制を組んでいますが、そのような予約から当日までのサポートをきちんとしてくれるかどうかということも、選定条件の一つになります。

あともう一つ、これは正直申しまして宇都宮の各施設には一番不足している点ですが、語学対応です。要するに多言語対応です。恥ずかしながら、ライトキューブには英語ページがありません。今期中には、英語ページが出来る予定です。

やはり英語・中国語・韓国語といった多言語のホームページの構築が、宇都宮市の市内の施設は大変不足しています。そういったものがやはり必須になってくると思っています。もちろんスタッフも、英語が話せるということが最低限の条件だと思います。

次にホテルです。ホテルに関しては、やはりそこに参加する方たちが泊まれるだけの施設、それだけの部屋数が確保できるかということです。先ほど、横浜においてはその客室数の確保が十分だということも伺っていますが、やはり新潟は、そこは厳しいというお話もありました。そういった客室数というのも大事です。

それにルームタイプです。ツイン・シングル・ダブル・スイートといった、幾つかの種類が必要です。次にその広さなのですが、海外の方たちをお泊めする場合には、最低でも 40 平米前後が、ホテルの部屋としては望ましい広さです。40 平米ないと、体の大きな欧米の方たちには厳しいと思います。宇都宮には大変恐縮ながら、ライトキューブの周りにはあるホテルは 20 平米前後と、やはりそこには不足している部分です。

そして料金です。これについても同様で、それに見合っただけの料金で提供してくれるかどうかということです。会議というのは予算がある中で行われますので、観光とは違います。そういう意味で、それに見合った予算で泊まれるかどうかということが大切です。

それから、ホスピタリティーレベルです。これも先ほど申しあげましたように、フロントで英語でのチェックインがなかなかハードルの高いホテルであっては、会議の受け入れとしては難しいということになります。

次に宴会場です。会議をやる場合にはどのような会議でも必ず、パーティーそれからそこでの

会食会というものがあります。宴会場で立食、着席、いろいろあると思いますが、その形式で何人収容できるか、それも大事な選定条件の一つになります。メニューも、和洋中といったバラエティーがあるのかどうか、それからそれに見合った料金であるかどうかというのも必要です。

サービスレベルも同様です。例えば100人、200人の着席のコースの場合、最初に出すメインテーブルから末席にいるテーブルまでの、サービス時間のタイムラグがどの程度あるかでしょうか。あまりにもあり過ぎるとサービスレベルとしては低いと言わざるを得ないと、そういったところもあります。

そして、レストランです。これは先ほどお話があったように、宇都宮市の周りには上場企業の研究所などもたくさんあります。その研究所の方たちのリクエストとしてわれわれも調査事業をした際にお話があったのですが、レストランがないということでした。個室のレストランがあるホテルが欲しいということでした。要するに、海外からのゲストをお泊めして、会食をする場所がないということです。それが必要です。

それから料理も、先ほど申し上げたように和洋中、フレンチなのか、イタリアンなのか、ある程度そろえておきたいということでした。料金、サービスレベルも先ほどと同様です。

それからケータリングについては、コンベンションの会場の中でパーティーを行う場合です。立食、着席、いろいろな形式がありますが、ライトキューブについては大変残念ながら、コース料理の提供はできません。ホテルが必要になってくるところは、ライトキューブの弱みではあります。立食のパーティーについては、市内のいろいろな協力企業からご提供いただけています。選定の際には、それに関して何食まで対応可能かというのはそれぞれの施設によって上限がありますので、そこもチェックする必要があります。メニューも同じです。料金も先ほどのホテルと同様です。

アクセスに関しては、国際会議の場合には羽田・成田・関空、そういった国際空港からどのようなアクセス方法があるかを中心に考えなくてははいけません。それから、駅からのアクセスです。ライトキューブの場合は歩いていけるといふ、これは全国、北から南までのコンベンション施設の中で、駅直結でここまで近いところは、私は例を見ていません。それだけは宇都宮の強みではないかと思っはいますが、そういったところも大事な点です。

それから先ほど来お話に出ていますが、これは言うまでもありませんが、自治体における支援の助成金ですね。うちも昨年に新潟で一つ学会を運営しましたが、新潟県からかなりの金額の助成金を頂いて、大変助かりました。宇都宮市も同様で、助成金でのご協力をいただいています。

そして、レストランや観光案内等のご提供、それからエンターテイメントです。例えば、熊本でやった場合はくまモンが来てくれます。徳島では阿波踊りが来てくれます。そういった地元のエンターテイメントのご提供も大変ありがたいことです。

先ほど申し上げましたように、最後のプライオリティーになるのが、皆さんコンベンション協会の方、地元の方は力を入れているアフターコンベンション、ユニークベニューです。正直に申しまして、会議を開く際の選ぶ条件のプライオリティーとしては最後になります。

宇都宮に来られた方は皆さん、懇親会が終わった後に「西川さん、どこの餃子おいしいです

か」と聞きます。そこで十分なのです。

やはりユニークベニュー、アフターコンベンションというのは、大変恐縮ながら最後のプライオリティーです。なぜかという、コンベンションに参加する方たちはビジネスが目的です。その場での意見交換それから情報収集、そういったものが一番の目的なので、MICE はイコール観光目的では一切ありません。なので、観光目的に来る方たちはもちろんいろいろな観光地を楽しみますけれども、コンベンションに来られる方たちはちょっと違うのではないかと思います。

それから、全体をまとめて、過去のいろいろな地での事例をお話しします。MICE 開催の必須条件ですが、やはり会場、ホテル、ケータリング、これがそろっていないと MICE は開催ができません。まちの顔となる MICE 施設とシティーホテル、これはビジネスホテルではなくてシティーホテルです。

先ほどお話がありましたが、例えばここに、グローバル MICE 都市である 12 都市の会場に隣接しているホテルを紹介しています。パシフィコ横浜さんの場合は横浜グランドインターコンチネンタルホテルです。これはグローバルチェーンのホテルです。サービスレベルもそれなりのものがあります。大阪の国際会議場はリーガロイヤルホテルです。これは大阪の地元の老舗のホテルです。京都はザ・プリンスホテル宝ヶ池です。ここに関してはプリンスホテルの中のトップブランドのホテルが隣接しています。

12 都市という意味でいえば、コンベンション業界に身を置く私としては、この 3 つはベンチマークとして考えている会場です。これらは地方都市と言うにはちょっと違うかとは思っています。

次に新潟の朱鷺メッセさんですが、この場合には日航が隣接しています。ソニックシティはパレスホテル、浜松のアクトシティもホテルオークラが付いています。出島メッセは、割と最近できたものですが、ヒルトンホテルがあります。こういった形で、やはり MICE を開催するためには、ビジネスホテルではなくシティーホテルが必須だということです。

残念ながら宇都宮は地方都市 MICE 施設ではあるのですが、今のところ誘致に成功していません。宇都宮としてはシティーホテルの誘致が喫緊の課題なのではないかと思っています。それと、多言語対応ですね。やはりこれをしていかなくはなりません。海外からの方たちが情報を得たくても得られないというところが、一番の問題だと思います。

最後になります。今回須賀先生から頂いた産官学民という言葉から、今度は須賀先生にお願いします。われわれコンベンション業界は、ある意味黒子で仕事をしています。こういう産業があることを世の中の人たちになかなか知られていません。なので、ぜひ大学でそういった学生さんをしっかり育てていただいて、われわれの業界に送り込んでいただきたいと思います。

やはり教育というのは、なかなかやろうと思ってできることではないのですが、それが今後の地方都市の創生、それからこの MICE 業界の成長にも十分役立っていく大切な部分だと思っています。

今回の必須条件に関しては、宇都宮の私たちも含めて頑張らなければいけないポイントはあるというところで、お話を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

◆須賀

ありがとうございました。「地方都市の MICE 戦略」ということで、PCO の大手でありますコンベックスの西川専務からお話をいただきました。

パネルディスカッション

「各都市に学ぶMICE誘致戦略」

パネリスト

宇都宮市魅力創造部長

安納 正和 氏

(前 掲)

西川 洋子 氏

(前 掲)

木村 勇一 氏

(前 掲)

鈴木 孝美 氏

(前 掲)

正木 章子 氏

司 会

宇都宮共和大学 学長・宇都宮まちづくり推進機構 理事長

須賀 英之

須賀

では、これから自由に意見交換をしたいと思います。宇都宮市魅力創造部長の安納さんから、感想も含めてお願いします。

◆安納氏

皆さま、こんにちは。パネルディスカッションから参加します、宇都宮市魅力創造部の安納と申します。どうぞよろしくお願いします。

宇都宮市の取り組みに関しましては、鈴木常務からのお話にありましたので私からは、「魅力創造部」という名前が結構珍しい名前だと思いますので、それについて一言だけお話ししたいと思います。

魅力創造部はこの4月に誕生した部です。宇都宮市としては12年ぶりの新部設置となります。都市ブランド戦略、スポーツ、文化行政、また観光MICE、この4つの業務を3部局から集め、新たな部を設置しました。一貫した都市ブランド戦略の下にスポーツ、文化、観光MICE、こういった多様な資源を活用し、人の活力の向上や都市の魅力の創造に取り組むことをコンセプトとしている部署です。

MICEに関しまして先ほど横浜市の正木部長から、パシフィコ横浜を核としたハード・ソフト両面からのMICEの取り組み、また新潟市の観光コンベンションの木村副理事長から、日本海側随一の朱鷺メッセを活用した戦略や、あとは県と市の併用可能な補助金、これは非常にうらやましいところでもあるのですが、そういったものを活用したMICEの誘致をされているというお話がありました。

またコンベックスの西川専務からはPCOの視点で、宇都宮市にとりましては非常に厳しいご意見を頂きましたけれども、あらためて、さまざまな課題を解決しないと、国内でもMICE都市

としての確立はなかなか難しいかと思いました。

鈴木常務からもありましたけれども、こういったさまざまなご意見を参考にしながら、今後、国際 MICE などの誘致にも積極的に取り組みながら、宇都宮市の地域経済の循環社会の実現などに取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

◆須賀

木村さんからは、宇都宮の施設について、他都市との競合もあるということですが、外から見た宇都宮の特色をお聞かせいただければと思います。立地条件は良くとも、それ以外に新潟との比較でここが欠けているのではないかと、お話ししたいと思っています。

◆木村氏

今日、初めて宇都宮市さんのコンベンション施設を見せていただきました。交通アクセスは抜群で、全国的に見てもトップクラスだと思いました。しかし、逆にアクセスがいいから、なおさらそれがまた欠点にもなるのかなとも感じました。首都圏から 1 時間以内で来られるということは 1 時間以内で帰れるということなので、経済効果の面ではマイナス要因かと思いました。

また、国際会議については、海外から来た人は滞在日数が長いということと、消費単価が高いということなので、われわれも今年度以降、専門チームを組んで、国際会議に力を入れていきたいと思っています。

宇都宮市さんのコンベンション施設を見せていただいて、交通の利便性は素晴らしいとは思ったのですが、他施設と競合するには規模がちょっと小さいのではないかと思います。駅前には景観条例や高さ制限があるのかわかりませんが、せっかくあのような施設をつくったのであれば、宿泊施設を一体型としてつくることができなかったのかなという感じを持ちました。

◆須賀

高級ホテル用地が空いていて、MICE とはニワトリとタマゴで、稼働率がよくて収益が上がることになれば、いずれ投資家が付いて、オペレーションする人はいるでしょう、そこは課題です。

知事は、6 年後の G 7 大臣会合をぜひ宇都宮で開きたいということですが、西川さん、どうぞ。

◆西川氏

昨年、G 7 の男女参画・女性活躍担当大臣会合が日光でありましたね。日光で開催できたのはなぜかという、やはりトップブランドであるリッツカールトンというホテルがあったことが大きな要因だったと思います。

宇都宮の場合は、われわれがまた自分の首を絞めるようですが、ホテルの誘致が難しかったとか、コロナも重なって、そういう状況にあるのが大変大きかったと思います。

それから今、木村さんからも、もう少し規模の大きいものを立てられたのではないかというお話もありましたが、用地のことと、それから建設予算のことがありました。それと、やはり稼働

率を上げるのは簡単なことではなくて、今もそれなりの稼働率がありますが、大きな部屋ほど稼働率が低いのです。小さな部屋は毎日毎日、午前、午後で替わるほどの稼働率もあります。そういった点で考えると、もしあれ以上大きな施設を建てたら、数字の面でかなり大変になるのではないかということが、今の宇都宮の現状かと思っています。

ただ、国際会議を誘致することになった場合には、やはり市のみならず県全体で旗を振ることが官民両方で必要になると思いますので、そういった動きをしっかりとした上で、今後ホテルも誘致し、会合を開くということが大前提ではないかと思っています。

◆須賀

正木さん、宇都宮についてアドバイスがあればお願いします。

◆正木氏

アドバイスできるほどではないのですが、宇都宮市の施設は、コンパクトで、コンベンション施設としては使いやすいのではないかという印象を受けました。ただ、ニワトリタマゴという問題はあるとは思いますが、やはりホテルがないとなかなか厳しいかと思っています。

横浜の場合ですと、市内ホテルさまからコンベンションなどの MICE が開催されるとやはりホテルの稼働率に跳ね返ってくるということで、そこは実感されているようです。ぜひそういったことも情報提供しながら、ホテルの誘致につながると良いかと感じました。

◆須賀

西川専務から、観光や周辺施設についてはプライオリティーが低いというお話がありました。宇都宮駅に MICE 施設ができれば県全体が潤うことを考えています。そこから大谷や益子や日光、那須にも行ってほしいと思っています。そうすれば、次の会議をまた宇都宮でやりたいと思ってくれる人もいると思うのです。

米国オーランドには年間 7,000 万人が来ています。夫婦連れで、インセンティブも含めてコンベンションが行われるということで、アフターコンベンションも大事です。しかし日本はビジネス中心なので違うかなという感じもします。正木さんは、横浜の観光資源との関わりをどのようにお考えになっていますか。

◆正木氏

施設については、市内が元気になる装置でもあると捉えています。横浜での市内発注をしっかりとさせていただくことを前提として助成金を出すなど、そういう仕掛けをしています。

あとはアフターコンベンションにつきましても、先生方がおっしゃるように、国際会議や学会に来ている方はやはりビジネスや学会などで来ているので、アフターコンベンションはあらかじめプログラムに入れておかなければ、突然参加するというのはなかなか難しいかと思っています。

ですので、誘致する段階から、横浜市はこのような魅力的なものがあるのでそれをプログラム

に入れて、ディナーや懇親会でこういうユニークベニューやアフターコンベンションをセットでご案内してくれませんか、ということも大事かと思います。

また、横浜に泊まっていただくということと、また横浜を起点にして、周辺には鎌倉などの魅力的な観光地がたくさんありますので、そういうところと連携していくことも大事だと思っています。

◆須賀

宇都宮市でも、さまざまなユニークベニューやレストランや観光地の紹介を、パンフレットにして訴求しています。

◆鈴木（孝）氏

資料の中にもありますが、宇都宮市におきましてもガイドブックを作りまして、その中でユニークベニューあるいはテクニカルビジットなど、そういったものを広く紹介しています。今現在も、こういったものができるのかに常に取り組みながら、宇都宮の魅力として商談会などでも PR しています。

◆須賀

成果は出てきていますか。

◆鈴木（孝）氏

今のところ、一番食い付いていただけるのは、「宇都宮は LRT がすごいね」ということです。ユニークベニューといいますか、とにかく LRT が開通したということで、そこが今のところは非常に売りになっていると思っています。

◆須賀

LRT に乗っても、Honda の工場正門前に行っても何にもなくて、トイレもないと、そのまま帰ってくるのです。フロアのほうからも、ご意見を頂きたいと思います。宇都宮が誇るユニークベニューの音羽先生、お願いします。どうぞ。

◆音羽氏

レストランをやっています、音羽と申します。私は、宇都宮市内に、よそからわざわざ来たる場所があまりにも少なすぎるかなと思っています。観光客などの場合にはいいのでしょうけれども、本当に大切な時間に大切な話をして、そのまま終わりですか、というのはすごく感じます。

また、工業団地もたくさんある中でいろいろな方が来た時に、先ほど西川先生がおっしゃったように、その後にきちんとした場があるといいと思います。密接な話をするにしても、ただみんながたくさん集まるのではなくて中身の濃い、そういう場面が非常に少ないと思います。

◆須賀

JTBの鹿野支店長、ご意見をお願いできますか。

◆鹿野

観光の立場からすると、アフターコンベンション、観光ユニークベニユーの効果はそれなりにあるかと思っています。一次的な当日の効果、それから気付いていただいて、帰って、例えば特産品や食をお取り寄せしたり、関心を持ってまた行ってみようと思ったりと、副次的な効果もあるかと思っています。

会議の目的は恐らくどの場所でもきちんと果たされるかと思うので、プラスアルファで、その地域の魅力を一次・二次効果を目的としていかに伝えられるかということが大きいと思います。宇都宮の中では、回遊性や発信、あるいは継続的にその地に関わるような仕組みをこれからやるのではないかと思います。われわれ観光の立場で、微力ながらお手伝いできればとは思っています。

◆須賀

では、ライトキューブの指定管理者の代表企業の、五光の木内さん、現状の課題があれば教えてください。

◆木内氏

コンベックスの西川さんに言っていていただいて、そのとおりだと思っています。全体的に結果を出すためのロードマップを具体的に考えたほうが良いと思っています。

国際会議を一つとっても、富山や松江市は年間いくつかやっていたりするのです。では、どういった人数、規模の国際会議を取りにいくか。それには足りないハードもありますし、人材育成というものもありますので、いつまでにどのようにやっていくのか、宇都宮 MICE ネットワークおよび官民住民が一体となってやっていくべきと考えています。

◆須賀氏

餃子会の鈴木さんはいかがですか。

◆鈴木（章）氏

宇都宮餃子会の鈴木です。今 JTB さんがおっしゃったとおりだと、私も思っています。どこでも会議は、できるわけですね。宇都宮が選ばれるというのは、宇都宮を選びたい理由があると思います。そのブラッシュアップが必要だと思います。

国際会議の誘致に関しては、宇都宮市が積極的にトップセールスをかけていっています。国内コンベンションは、学会を含めさまざま誘致していますので、それに対する満足感を引き上げて

いくことと、整えていく、磨き上げをするということだと思っています。

ないものを望むよりは、現状の磨き上げをしていくことだと思います。外から来た方が「意外と餃子はニーズがあるのですね」と言いますが、餃子にニーズがあるから宇都宮を選んでいると、ただこれだけで終わってしまっただけではいけないので、全ての磨き上げが今必要だと思っています。以上です。

◆須賀

経済界からお願いしたいと思います。県央まちづくり協議会の佐瀬さん、お願いします。

◆佐瀬氏

選ばれるまちになるためにはどうするかという話をよく議論するのです。宇都宮でいえば、北関東で高崎、前橋、それから茨城県の水戸に比べて、宇都宮を選んでいただく理由をどうつくっていくかということが、大事です。

餃子も大きな武器であろうと思いますが、それ以外に宇都宮を選んでいただく理由をいろいろ知恵を絞りながら頑張っていけば、さらに宇都宮が脚光を浴びていくのではないかと、思います。

◆須賀

栃木銀行の黒本会長、経済界としてお願いします。

◆黒本氏

いろいろな形で MICE が宇都宮で開催されて、人が集まるということ、これ自体が市内の事業者の皆さまの発展につながっていくと思います。金融機関として少しでもお役に立てるように力を尽くしたいと思います。

◆須賀

このあと人材や財源や DMO について伺いたいと思います。DMO は各地で少しずつできてきていますし、また宿泊税導入などについての動きも出てきています。木村さん、新潟での議論はどのようなのでしょうか。独自の財源は、地方都市にとっては大事なことはないかと思っています。

◆木村氏

宿泊税に関しましては、MICE で市外、県外から来て経済効果を上げていただくのと同じように、直接お金が開催自治体に落ちるということではかなり魅力的です。そのため、4～5年前から新潟市への宿泊税導入の議論は行われてきました。その中で議員提案という形で、議員さんから宿泊税の提案を検討してもらっています。

それから新潟県をはじめ近隣市町村の中では、世界遺産に認定された佐渡市が宿泊税の導入を検討しています。宿泊税の利点・欠点は以前から議論されています。金沢市さんが先行しており、

様々な課題があることも承知していますが、まちづくりにも活用されていますので、宿泊税の導入というのは来訪者の利便性向上にも有効な手段になると思っています。

それから、先ほど会場から「選ばれる都市になるため」というお話がありましたが、国内では宇都宮市さんも新潟市も知らない人はいないと思うのですが、海外ではほとんど知られていないと思っています。今年の春に、シティー馬拉ソンの誘客で台湾に行ってきました。台湾で「新潟市から来ました」と言っても担当者は一人として、新潟市はどこにあるか、新潟市を理解している人はいませんでした。

とにかく知ってもらうことが先決だと思っています。そのため、インバウンドに関しては今後ターゲットになり得る、例えばタイやインドなどでよく見られる SNS に業者を通じて、そこでの露出度を増やすということをやっています。まずは認知してもらわなければいけないと考えていますので、海外から選ばれる都市になるにはそこからと考えています。

◆須賀

私は外国人と会って、「宇都宮」と言ってもなかなか分かってもらえないのですが、「ゲートシティオブ日光」と言えばすぐ分かってもらえます。財源、人材、DMO 等について、西川専務、お願いします。

◆西川氏

私は行政の立場ではないので税金のことはあまり詳しくはないのですが、今のお話を続けさせていただくと、私どものオフィスは、今日本一高いといわれている麻布台ヒルズの目の前にあります。日比谷線の神谷町が最寄り駅なのですが、歩いて3分ぐらいの間、朝の通勤時間以外は、すれ違う8割から9割が海外の方です。日本語が聞こえてこないような、そういった地域です。彼らはどこを目指すのかというと、東京タワーと麻布台ヒルズ、そういうランドマークです。ランドマークがあるということが、あそこの一番の強みではないかと思います。

では、宇都宮にそれを置き換えて考えると、そういったランドマークというものが残念ながら今の宇都宮にはありません。日光には東照宮など、そういったものがあります。今から、何かをつくってくださいと言うのは難しいのかもしれませんが、宇都宮に来ると何かが楽しめる。そういったものが発信できるのが、第一ということは確かだと思います。

それから先ほどの、開催地を選ぶお話の中で私もお説明をした一つとして、主催者が例えば、共和大学の先生方もそうですし、宇都宮大学、獨協大学、自治医科大学といった地元の先生方の場合、地元で開催をしたい気持ちが大きいです。ですから、地元の企業、地元の大学の方は、機会があれば必ず宇都宮で開催してください。

それ以外に、では全国の中からどこを選ぼうかと探した時に、沖縄・北海道はそれだけで皆さんが一つ行きたいところです。宇都宮には残念ながらランドマークはないけれども、では日光で会議をしたらどうかということになります。以前、日光で会議をやりたかったのですが、結局規模が小さくて、そういう施設がなくて開催ができなかったという事例もあります。その場合に、

では日光市と宇都宮市とでタイアップして、誘致活動は十分できるのではないのでしょうか。

宇都宮の駅を降りると、外国人の方は皆さん、改札を出ないで乗り換えます。どこへ行くかという日光です。だから、その方たちをいったん宇都宮に降りていただくような手法を考えて、ライトキューブの駅前で何かを企画する、そういった手法ではないのでしょうか。

日光に行く前にまずは宇都宮で、日光に行った帰りに宇都宮でという何かをつくっていったらいいなと思います。

◆須賀

安納さん、どうぞ。

◆安納氏

西川専務のお話の中で、宇都宮だけですとなかなかランドマーク、目的地となる場所がないということがありました。日光市、宇都宮市だけではそれぞれ足りないものがあるので、一緒にMICE 観光の受け皿として、協力できるところは協力しましょうという話し合いをまさに始めたところです。

なので、これからお互いが相互補完するようなイメージでやっていきたいと思います。栃木県全体であれば非常に魅力的な場所がたくさんあるので、その先には日光だけではなくて、ほかの自治体とも連携をして進めていければと思っています。

◆須賀

正木部長、ここまでのところでいかがでしょうか。

◆正木氏

財源・人材・DMO というお題で言いますと、宇都宮市さんは経済界そして事業者の皆さん、地域の皆さんが、MICE をきっかけに盛り上げていこうという意識がすごく高いところだということを感じました。

横浜市においては、MICE 人材の育成というのやらせていただいています。市内の大学の学生さんに「MICE のプログラムに参加してくれたら単位をあげますよ」という形で、横浜市で開催される国際会議のアフターコンベンションを提案したり、「レセプションパーティーの時に盛り上げるものを考えられませんか」という話をしたりしています。

つい最近 MSEAS という会議があったのですが、その中では学生のみんが横浜の魅力的なところを自分たちで写真を撮ってきて、缶バッジを作ってガチャガチャで楽しんでもらって、皆さんはすごく喜んでくださっていました。MSEAS なので海に関係する魅力的なところを紹介したいというので、八景島シーパラダイスを紹介したりしていました。

そういうことを通じて学生さんも MICE に関わって、MICE の業界にしっかりと携わっていただくという人材育成も大事かと思っています。

◆須賀

これからのコンベンション協会の在り方についてアイデアをお願いします。

◆鈴木（孝）氏

いろいろ戦略的に進めていくのに、ポイントが5つあるかと考えています。1点目が、宇都宮で開催されるためには、やはり宇都宮で開催するとどういったメリットがあるのか、あるいはどのような体験や学びができるのか、そういったセールスポイントを掘り起こして、それを商談会等でPRしていくということを、まずしっかりやっていきたいということです。

それと、MICE ネットワークということで、今、官民一体でやろうという体制をつくりました。ただ、まだ始まって間もないということで、稼ぐということに対しては非常に分かりやすいのですが、それにあまり直接関係のない団体さんはどういうメリットがあるのかが、分かりづらい部分があるかと思っています。ですから、それについてはわれわれのミッションとして、大学あるいはこういう団体でもこのようなメリットがありますよという見える化をして、やはり MICE は非常にメリットがあると思っていただけるように、そして自分事化していただけるようにしていきたいと考えているのが2点目です。

3点目として、先ほど広域連携ということで西川さんから日光とタイアップという話がありましたが、また安納部長がおっしゃったように、日光とはそういったことがスタートしたところです。さらに益子町や、それと最近ではさくら市からもオファーを受けていますので、そういったところとしっかりとコネクションをつくりながら、広域のプログラムなどを作っていければと思っています。

4点目が、私の話の中でもありましたが、キーパーソンとの関係構築ということです。キーパーソンとの個人的なネットワークをいかに築けるか、そこがものすごく大切な気がしていますので、情報交換会や懇親会などそういったものを継続的に開きながら、関係をつくっていくことが必要かと思っています。

そして、5点目。これは人材育成的な部分にもなるかと思いますが、例えば宇都宮であれば「宇都宮市は誰々さんがいるから安心して任せられます」と、そういう人材を積極的につくっていくことが大事だと思います。それがやはり中長期的には、選ばれる都市にもつながっていくかと思っています。そういったところを戦略的にいろいろと取り組んでいければと思っています。

◆須賀

では最後に、一言ずつ宇都宮にエールを送っていただければありがたいです。

◆正木氏

今日は貴重な機会をありがとうございます。宇都宮の推進体制や施設などもいろいろと教えていただきまして、すごく参考になりました。

いろいろな個別の会議の誘致におきましては競合することもやはりあって、「今回は〇〇市さんに負けてしまいましたね」ということもないわけではないのですが、基本的には日本国内の MICE 施設がしっかりと連携をして盛り上げていくことが大事なのではないかと思っています。

せっかくこういう機会を頂きましたので、ぜひ情報交換をさせていただきながら、いい取り組みをいろいろなところでやっていけたらいいと思います。どうもありがとうございます。

◆西川氏

私は、今日は2つの立場で参加しています。ライトキューブの指定管理者という立場としては、ここにいらっしゃる地元の皆さんもぜひご利用いただきながら、利用率を上げていきたいと思っています。

それから、PCO という立場から申し上げますと、宇都宮の魅力が何なのかというのがなかなか見えにくい、正直、そういう都市であるのは確かだと思います。先ほど来申し上げているようないろいろな手法をもって、これから宇都宮で、G 7 なのか、あるいはほかの国際会議なのか、そういったものが誘致できるように、私もお協力をさせていただきながら進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

◆須賀

また、木村副理事長からは、先輩としてのアドバイスや戦線布告など、何かありましたらお願いします。

◆木村氏

（新潟と宇都宮は MICE 誘致においては）お互いライバルでもありますが、ぜひとも互いに頑張っていきたいなと思っています。

ただ一点、ちょっと気になったのが、新潟市は割と、新潟県と一緒に連携しながら取り組んでいます。そういった意味では栃木県はどうなっているのか、ちょっと気になったところです。やはり都道府県レベルというのは大きな存在ですので、一体的な取組が重要だと思っています。

◆鈴木（孝）氏

皆さんがご存じのように、宇都宮はやはり餃子、ジャズ、カクテルなど、全国に誇れるものをたくさん持っていると思います。そういったものを当然生かしつつ、宇都宮というのは歴史的にも街道や水運など、非常にいろいろな情報や人、ものが行き交いながら、常にそういうものを吸収して発展してきたという地域性があるかと思っています。

そういう意味では、宇都宮は人と出会える、あるいは出会う機会が設けられる、そしてそこから新しいものを生む力を持っているかなと思います。いわゆる「まちぢから」と言う方もいらっしゃると思いますが、そういったものを宇都宮は持っていると思っていますので、そういったものを全

員で発揮しながら、オール宇都宮で MICE をしっかりと誘致・支援していければいいと思っています。

そしてまた、今日ご参加いただいた皆さんの中でも、このような MICE の案件を知っているというのがあれば、ぜひ協会あるいは市に情報提供をいただけると大変助かります。本日はありがとうございました。

◆安納氏

宇都宮には素晴らしい地域資源、餃子、ジャズ、カクテル、そして今はライトラインと、たくさんものがあります。餃子といえば宇都宮、宇都宮といえば餃子で、横浜市さんの前で言うのもおこがましいのですけれども、MICE と言えどということ、国内で国民的コンセンサスを得たものは、まだないのかなと思っています。

まだ間に合うのであれば、宇都宮の名前がその一つになればいいなと思っています。そういったプロダクトブランディングを磨くことで、最終的に宇都宮のコーポレートブランディングを高めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

◆須賀

どうもありがとうございました。やはり MICE はこの少子高齢化の時代に、地域にとって経済波及効果も大変大きく、また地域の魅力を磨くという意味でも効果があると思います。本日のテーマであります「『MICE 都市』の創造に向けて」、皆さまがそれぞれの立場で、ご支援、ご協力をいただければと思っています。